
裸でゴメンあそばせ？

市太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

裸でゴメンあそばせ？

【Nコード】

N4531U

【作者名】

市太郎

【あらすじ】

飲み会でちよつと羽目を外して飲み過ぎちゃった週末。終電に飛び乗り何とか家の近くまで帰ってはこれたけど、近所の公園で力尽きて目覚めてみたらここはどこ状態。そろそろ女の崖っぷちについて考えようかとその気もないのに思ってみた二十五歳、なぜか人生の崖っぷちに立っています。

私は宿命的な放浪者である——娼婦としてわらしべ長者していくとある女の異世界放浪記。

01・因果応報

よく言うよね。

親の因果が子に報いとか、因果応報とか、何の因果でこうなったとか？

つまりはこれっぽっちも身に覚えがないのに、現在進行形である果報の何たるや。

それとも、情けは人の為ならず巡り巡って己が為とやらの逆バ―ジョンですかね。

昔しでかした悪さが巡り巡って自分に還ってきたとか。

そういう場合は、天に吐いた唾が戻ってきたというべき？

人生二十五年生きてきて、反抗期には親と派手に喧嘩もしましたし、小狡いことをしてしまったりとか、見栄で小さな嘘をついたりとか、そんな悪さならしてきましたよ。

ええ、私も若かったもんだと反省すべきところではありませんけどね？

だからといって、これは無いだろうって思うんですよ。

私、そんなヒドイことしてきちゃいましたか？　ってね。

これはいつたい何の天罰なんだろうかと。

もう本当に世を儚んじやおうかとか、どう考えても自分のせいとは思えず、親とか先祖とか前世のせいじゃないかとか。

聴^{てん}ぱり過ぎて危うく頭が宗教方面に傾倒しそうにもなりましたが、今は諦念しちゃってますよ。

普通にOLをしてまして、ちょっと飲みすぎた週末の飲み会で、近所の公園を通り過ぎたところまでは覚えてるんだけど、それ以降の記憶がない。

気付いたらここどこ状態。

コンクリとかアスファルトなんて見慣れた物は一切なく、倒れて

いたのはカラツカラに乾燥しきつてひび割れた地面。

目の前を乾涸びた枝の塊がコロコロと風に吹かれていく様子を呆然と見詰めていたっけなあ。

未だにあの枝の絡まり具合とか鮮明に覚えてるもんね。

状況が把握できなくて、最初は西部劇のセットかと思ったし。

というか思い込もうとした、が正しいか。

二日酔いで気持ち悪いし、体フラフラだし、訳分らないし、日差しきついし、脱水症状で死ぬかと思ったね。

日差しはちょうど真上から照りつけていて、じんわりと滲んでる汗に風が吹くと一瞬ひんやりとして気持ちいいのよ。

さすがにリアル過ぎて怖くなってきたから、日差しを遮る場所を求めて歩き出したまでは良かったんだけど、障害物と思わしき影が遠いのなんの。

ヒールの細いパンプスで長距離歩けとか無理だし。

というか私、事務職で営業じゃないから普段から歩くこと少ないんだよね。

趣味だってインドアだし、通勤以外で電車なんか乗るの嫌いだし、オフは全部車で移動ですよ？

どれだけ歩いたかは分からないけど、そうたいして歩かないうちからへばっていたのは確実だったと思う。

で、今にも倒れそうな頃合に現れたのが何と三両の馬車。

まじで、西部劇に出てくるような馬車。

馬が引く幌を被ったアレですよ。

かなり朦朧ときてたからうつかり助かった！とか思っちゃったけど、普通に考えれば日常で馬車なんて有り得ないし。

その時の状況からして、日本在住だったのにいきなり荒野とか既に有り得なかったわけなんだけど、更に有り得ないのが馬車から出てきた連中ですよ。

盗賊？ 山賊？ 今更、連中の職業なんて詳しく知りたいと思わないけど、死にそんな女を普通犯すか？

まあ、普通じゃないから賊をしてんだろっけだね。

で、連中に手加減なく輪姦^{まわ}されて、売られた先がここ場末の売春宿。

珍しい容姿をしているからって、結構いい値段で売れたらしいですよ。

というのも、何言ってるかさっぱり分からなかったのの後から姐さんたちに聞いた話ね。

とうぜん、日本語じゃないし、ろくに喋れないけれど英語でもないし、中国語でもない。

まるつきり聞いた事のなかった発音なんだよねえ。

いかにも荒野ですって場所を一人で歩いていたときから薄々は思っていたけれど、連中と対面したときには流石に日本じゃないし、地球でもないってことは気付きましたよ。

だって、連中の顔というか体とかね、動物が混じってるんですけど。

馬車を引いてた馬だって大きさは馬みただけど馬じゃないし。

今にも死にそうだったのに連中のナリを見た途端、元気よく悲鳴上げて逃げ出しちゃったっけなあ。

直ぐに捕まったけどね。

顔が獣相だったり、体が二足歩行できちゃう動物だったり、人間の体で動物並の体毛とか、角とか耳とか羽とか鱗とか、要はノーマルな人間が少なかったりするから、私みたいな平凡な容姿でも珍しいんで高く売れたんだけどさあ。

何でこんな目にあっちゃってんだろ、私。

まったく、何の因果でこんなことになっちゃったのかしらねえ。

さすがに三年も経てばそれなりに言葉も覚えたとし、一応は衣食住も安定しているし、この世界の常識なんかも覚えてきたけど、こう暇ができると考えちゃうよね。

何でだろうって。

窓枠に頬杖をつき、日が沈みつつある見慣れた通りを見下ろしな

がらつらつらと物思いに耽っていたら、妹分がお客さんが来たことを知らせにきてくれた。

灰吹きヘキセルの灰を落とす、重い腰によいこらせなんて言っちゃいますよつと。

お客さんを出迎えにいかないかね。

さて、もうそんなに若くはないんだけど今夜も頑張りますか。

02・継続は力なり

よく言うよね。

継続は力なりって。

日々の積み重ねがいずれ身に付くっていうね。

今日は雨でお客さんの足も鈍くなるだろうから、こうして日課である四股を踏んでいる私は今日も元気です。

まあ、ただ暇なだけだね。

そういえば、この宿で働くことになった初日から大変だったなあ。一六〇センチの身長とか、まあ日本人なら普通だとは思うんだけど、こつちだと小さい部類になるのはよいとして。

基本的に身長は高めで横幅は個人差が大きく出るんだけど、こういう宿にくる連中の大半は肉体派というか、見るからに色々溢れるねえってタイプが多い上に、凸と凹のサイズが明らかに合わないんだなあ。

彼氏いない暦数年イコール使用度もリセットされました凹を相手に、まあ皆様つたら野蛮ヤバン。

リセット後の初カウントも血まみれでしたけどねっ！

当然の成り行きで熱出してぶっ倒れたら、こんな柔^{やわ}じゃ連れ回せないという理由でこの売春宿に売られた拳句、獣相のないノーマルな『人間』が珍しいからとか、今度はお客さんが初日っから大フイバーしてくれて、ようやく下がった熱が再び急上昇。女は優しく扱えってんだ。

立て続けに裂傷した凹だったが頑張った。

誰が誉めなくても私が誉める。よく耐えた。よく頑張った！

一ヶ月寝込んでオーナーにはあれこれイヤミも言われましたが、生かすも殺すもオーナーの腕次第じゃないかってね。

まあ、今じゃ一番の稼ぎ頭ですから色々と融通はしてもらえてる

けどねえ。

と、狭い部屋を四股で十往復終了。

………暇だし、もうワンセットやるか。

これ、股関節が柔らかくなっているのよね。

何せインドアだったし歩くのも最低限だったから、体だって硬さが自慢だというのに、いきなり超難易度な合体とか無理だったの。

腓返りは頻発するわ、脇腹攣りそうになるわ、股関節外れそうになるわとか、マジで有り得ない。

一八〇度開脚とか、人生の中で最高を記録した絶叫でしたよ。

あれ以来、うる覚えな見よう見まねのストレッチを始め、これまたそれっぽい四股を踏んでから早三年。

今では、一八〇度開脚だってなんのその、上半身だって床にべったりと倒せちゃいますよつ。

いやあ、継続は力なりって本当だよねえ。

って、ツツプリツツプリツツプリと調子に乗ってたなら、妹分のオカメちゃんが可哀想な人を見る目で見てるんですけど。

いつから居たの？ え？ さつきから？ 言つてよー。

今日は雨のせいかオカメちゃんのアホ毛が萎れている。

オカメちゃんの名前はオカメちゃんではないけれど、未だ正しく彼女の名を覚えられない。

けっして私は馬鹿じゃないとは思っていたんだけど……オカメちゃんは鳥系統の獣相持ちで、オカメインコの冠羽っぽいものがピヨッと頭の天辺についているんだよね。

初対面以来、私の中で彼女はオカメちゃん。

本日のストレッチはここまで。

手招いたら素直に近寄ってくるからオカメちゃんは可愛い。

今日も冠羽をくりつくりと巻いて可愛くアホ毛にしてあげよう。

チークも目一杯丸く塗りたくってあげたいがそこは自重だ。

それにしても今日は稼ぎが少なそうだなあ。

03・金は天下の回り物

よく言うよね。

金は天下の回り物って。

世話になりたくはないが世話になっている売春宿は、場末な癖に結構儲かっているらしい。

何せ、雀の涙みたいなモンだけど、給料が出るんだからありがたいよね。

望んだわけじゃないけれど売られた身ですから、借金背負ってるわけですよ。

まさか給料貰えるなんて思わないし。

不思議に思ってた姐さん達に聞いてみたら、やはり場所によっては給料が貰えない所もあるらしい。

とは言っても本当に、ほんとーにつ、微々たるモンだけだね。

そこはやり口が上手いなと思わざるを得ない。

大体、この寂れた通りで買える昼食が日本円に換算すると五百円くらいで、貰ってる給料といえは日給千円。

チップはお客さんによりけりだけど、まあ一人五十円から百円ですよ。

上手くやってるなあって思うのが、与えられた部屋は私室でもあるしお客さんを相手にする部屋でもある。

一晩で数人こなさないといけないから、当然シーツを替える必要があるんだけど、最初に渡されるのは予備の一枚だけで、後は支払われる給料やチップでの買い取りですよ、買い取り！

これが一枚百円！

二枚でシーツ回せるかつつの。

三食は賄ってくれるけど、アメニティグッズも日用雑貨も全て自腹。

服だつて下着だつて支給されるわけないから当然自腹で購入。

みすばらしくない程度の服で大体二千円前後。

色気の無い実用パンツが五百円くらいで、勝負パンツは安くても千円から。

日給千円じゃやっていけないので、お客さんから貰うチップには思わず手を合わせて拝みたくもなるよね。

お客さんに通ってもらえないとなると宿から貰える給料も下がり、チップも入らないから通ってもらうためにも着飾らなくちゃいけないのに先立つものはないというね。

宿からお金を借りる事もできるけど、そうなると借金が膨らむ一方だし、給料を与える事で年季が明けるかもって期待を持たせつつ、実際には逃げ出すほど貯め込めないようになってるんだから、やり口が上手いと誉めるべきか汚いと貶すべきかって感じだよねえ。

……………吉原じゃないんだから年季って言うのか、そもそもあるのかも分らないけど。

手っ取り早く足を洗えるのは身請けだよな。

そう、妹分であるオカメちゃんが身請けされるのよ。

この間、自重できずにオカメちゃんのほっぺをチークで赤くしてあげたわけですよ。

オカメインコのようにねっ！

可愛かったよ。笑っちゃいましたよ。笑うでしょ、普通っ。

可愛い女の子の頬がまん丸で赤くなっていたりしたら。

元々オカメちゃん鼻屑にしていた鳥系のお客さんが、ほっぺ真っ赤なオカメちゃんを見て天啓を受けたらしい。

獣相マジ分かんない。

あれよあれよで身請けが決まって、明日にはオカメちゃんとはおさらばですよ。

可愛い妹分が幸せになるのは勿論嬉しいですよ？

ええ、姐さんのお陰ですとか両手握り締められて涙うるうるされちゃったら、当然おめでとうと祝福はしますよ？

いくらなんでも妬んだりひがんだりなんかしませんよ。

しないけど、何だろうこの遣る瀬無いような、やり場のないような、悔しいような気持ちは。

私もほっぺ真っ赤にすれば身請けのチャンスはあるのかっ！

.....。

まあ、済んだ事を嘆いていても仕方ないしっ。

別に悔し紛れなんかじゃないしっ。

泣いてなんかないもんっ。

泣いてなんかっ.....。

鼻水が垂れた。

可愛い妹分の目出度い門出なので、この三年間で爪に火を灯すように貯めに貯めた四万円の中からご祝儀で一万を上げる事にしましたよ。

残り三万円。

一ヶ月の家賃にもならない残り三万円。

一万円よ、帰ってこい。

必ず私の元へ帰ってこいっ！

さっきから頭の中でエンドレスリピートしている津軽三味線の音色に合わせ、握り締めた一万円に向かって帰って来いよ！と呪詛を送っておく。

オカメちゃんも帰ってこなくていいから、お前だけは何としても帰ってこい！！

04・上手い話には裏がある

よく言うよね。

上手い話には裏があるって。

私が乗った話じゃないけどね。

行動制限があつたからこの町の全てを知っているわけじゃないけれど、目の前の通りからして景気が悪そうな場所にあるこの売春宿向かいのお店なんて錆びた看板が今にも落ちそうだし、並んでる店なんて似たり寄つたりとらぶれてるというのに、こんな場所でもよく客が入るよなあとは思ってました。

そう、町の雰囲気は火が消えた感じだというのに、この店だけは景気が良いのよね。

一年を過ぎた頃には流石に周りの雰囲気というのも分かるもんだし、言葉はまだ不自由してたけど、景気の良さだけは不思議だったのよ。

姐さん達は選り取り見取りで可愛いと美人が揃っていたからなのかもしれない。

こっちの美醜はよく分からないけれど、顔のパーツや体のラインは私から見ても凄いつて思えたくらいだし。

この売春宿は自分よりも先にいる先輩方を姐さんと呼んで、後から入ってきた後輩は妹分と呼んで互いに世話をしあうんだけど、私も入った当初は優しい姐さん達に色々と面倒を見てもらいました。

ほんと、お世話になりましたよ。一生、頭が上がりません。

あれえ？　と思ひ始めたのは半年くらい前かな。

姐さん達がどんどん消えて妹分がその分増えてきたのよね。うん。最初は身請けされてるのかと思ってたんだけど、どうやら別の場所に連れていかれたらしい。

何せ、未だに日常会話がやっとな語学力だから詳しい事情という

か、専門用語なのか難しい言葉は聞いても分からないのよねえ。

オカメちゃん是个別で売られてきたクチで、お客さんに見初められて先日目出度く店から出ていきましたけど。

そんな頼りない語弊で聞いてみたら、オーナーは半年ほど前に風俗店の組合みたいところの会員になり、月だか年だか知らないけれど結構な額の納金をしていたと。

組合の会員になると、お客さんの斡旋と上物って言われる『商品』の派遣がウリらしい。

で、実際に入ってきた『商品』である妹分達は確かに顔は良いのかもしれないんだけど態度がいただけなかったんだよね。

最初のうちは私達に対していかにも格が違うのよって態度で、通ってくれていた顔馴染みのお客さんにも大人しくしていたの最初だけで直ぐに横柄な態度を取るようになったね、そういえば。

元々、姐さん達のお馴染みさんだったんだけど、その姐さん達が居なくなったから新しくきた妹分を呼ぶことになるわけで、結果としてはろくに仕事をしてなかったから馴染みのお客さんが徐々に減っていったりってね。

とある姐さんを鼻屑にして通ってたお客さんの一人で、妹分に分けてあげてなんてお菓子を持ってきてくれるような良い人が凄い怒って帰っていつちやったしなあ。

今思えば態とだったのかも。

これが全部手の込んだ詐欺だというから驚きだよねえ。

乗っ取りっていう詐欺らしい。多分。

やってきた妹分達も桜だし、斡旋されてきたお客も桜。

会員になった当初は宿の売り上げも一気に跳ね上がる。

調子に乗った力モは更に会費を上乗せしてもっと良い商品を派遣してもらった。

組合からくる妹分達は組合の『商品』だとかで、消えた姐さん達は担保として組合に引き取られたらしいと。

で、先月に桜の妹分が桜の斡旋客に粗相をし、斡旋客が激怒で妹

分に怪我をさせたんだよね。

店先で騒ぐ客にお金を包んで事を何とかその場で済ませたはいいけど、今度は組合から『商品』を傷付けたので賠償しろと言われたそうで。

そんなすったもんだが今月で三回目。

元々いた馴染みのお客さん達もすつかり足が遠のいちゃって、店として成り立たなくなっちゃったんだよね。

収入なければ払うモンも払えませんし、組合への会費なんて当然払えませんが、あちらさんはそれを狙っていたわけで、抜けるといつても抜けられないようにできているらしいと。

理解できないから、全部らしいらしいんだよね。ストレスだわあ。

もう少し言葉の勉強に気合を入れないとだね。

詐欺の手口とか細かい仕組みはサッパリちんぷんかんぷん。

まあ、契約がどうたらとかそういう事なんだとは思っけど。

そんな話で騙されるのか？　と思わなくもないけど、現にオーナーが騙されたんだし、色々と巧妙に話を振ってきたんだろうけどねえ。

こういう商売してるんだから、もう少し狡賢い人かと思っただのに案外騙されやすかったのかな。

そんな訳で、三日前からオーナーが夜逃げしちゃっていませーん。今現在、店で姐さんと呼ばれているのは私入れて三人だけ。

一人は癖のある人で、もう一人はやり手ですか？　ってくらいに

この店にいる一番古い人。

残る妹分は全員組合が派遣してきた子達ね。

私はこの店の目玉だったのでオーナーが最後まで組合に渡さなかつたみたい。

二人の姐さんはこれからどうなるんだろ。

それと組合に連れていかれた姐さんや妹分達はどうしてるのかな。かなり心配ではあるんだけど、私も悠長に人のことを心配してい

られません。

私、別なお店に売られるらしいんで。

いきなり引つ張っていかれそうになったのを拝み倒して、急いで少ない荷物をかき集めましたよ。

見送ってくれた二人の姐さんが凄いい笑顔だったから、何か関係していたのかもしれないけれど私の知るところじゃないというか、今更知りようがないよね。

で、三年間世話になったお店とお別れしまして、今馬車に揺られています。

売られる子牛の歌を口ずさみながら。

はぁ……また借金背負うのか。

05・君子危うきに近寄らず

よく言うよね。

君子危うきに近寄らずって。

君子って人格者の事を言うんだよね。

君子並に徳があつたら、きつとこんなところにはいないけどつ。

それとも、命を知る者は巖牆がんじょうのまち之下に立たずってか？

どっちでもいいけど、私はこつから動きません。ええ、絶対に動きませんとも。

野太い怒声が飛び交う中なんか自分から出て行こうなんてこれっぽちも思いませんからつ。

終わつたら迎えにきて下さい！

伊達に三年も命根性汚くやってきたわけじゃありませんからつ！
どこへ向かうのかも知らないまま馬車に揺られて半日、日も沈みかけた頃に何かがやってきた。

という事までしか分からないいつ。

乱暴に馬車が止まつたかと思つたら怒声と殴打の音が幌の向こうから聞こえてきましたよ！

もう、毛布被つて荷物へ擬態してます状態。

この世界の野蛮な人達つて腕自慢の人が多い……というか、殆ど自慢しまくつて人達ばかりで、刃の付いた武器よりも鈍器が主流なんだよね。

それとも私が見る機会なかっただけで、普通に武器として剣があるかもしれない。

でも、今は外から潰れる音ばかりで剣がかち合う音は聞こえてこないんだよね。

怖いっ。まじ怖いっ。

売られて暫くは私も色々とお悩んだりもしましたので、いつその事

！　なんて思ったりもしたけれど、いざ実行してやろうって思った矢先に私の直ぐ前に売られてきた姐さんが実行してしまったので勢いがなくなっちゃった。

悲鳴が聞こえてどったんばったんした後、通りに投げ捨てられた音がしたんで窓から覗いてみたらその姐さん顔面血だらけで倒れてたんだよね。

死のうと思えば簡単に死ねちゃうんだなと一気に冷めましたよ。

お客の財布を抜いたり、唾の一つでも吐きかけてやれば軟い私なんて拳一発で終わりなんだよねってお陰で気付いたわけで。

まあ出来るところまで生きて足掻いてやるかって気にはなっただけど。

けどー。

直ぐ傍で殺し合いとか本当に勘弁してくださいーっ。

私そこまでこの世界に慣れてませんからーっ！

あ！　馬車揺らさないでっ。ちよっ、幌が破れた。怖っ。危なっ。自分で自分の口塞いで悲鳴堪えてんだからそつととして！
目的が何か分からないから本当に怖い。

私が目的なら大人しくしていれば命は助かると分かってはいるけどっ。

一人で外出たらこういう目に遭うかもしれないから、逃げもせず
に大人しくしていたのに。

『人間』は確かにモテるけど、要は生まれる子供の獣相に影響が出ないからなんだよね。

虎の顔に兎の耳なんて獣相を持って生まれた子供なんかは、どっちつかずで色々生き辛いらしいし。

そういう極端なカップルはまずいないらしいけど、ちぐはぐな獣相とならないためにも獣相の少ない相手を選ぶ傾向にあるというのはこの三年で流石に覚えた。

金を持っていれば買い取るし、腕に自信があれば奪い取る。

それがこの世界では普通なんだよね。

あわよくば子供できるといいな、とか言って通ってくれていたお客さんもいたけど、未だヒットした人はいないし。

まあ、正常に機能しているようにには思えないので、これからもヒットするとは思えないんだけどさあ。

もしかして血尿か?! と焦ったくらいすんごい薄いんだもん。何か子供は無理だと思う。

オーナーは子供できたらできたで出産権を買ってもらったかほざいてたけどさ。

.....。

って、外が静かになったんですけど?

えっと、終わり?

このまま荷物の擬態を続けるべきか、様子を窺うべきか、どちらだ!

耳を澄ましても音が聞こえないしっ。

ちょ、ちょっとだけ見てみるか?

目が血走っているミノタウロスと間近でお見合いしちゃいましたっ!

迎えにきてくれた方ですか?

ちよっと私も緊張し過ぎて色々と限界みたいです。

失礼して失神させてもらいますね。

目覚めたら改めてお会い致しますよう。

では!

06・所変われば品変わる

よく言うよね。

所変われば品変わるって。

三年間世話になった売春宿は北にあったんだけど、今は南の娼館で世話になってるからやはり第一印象は暑いねえ。

前に居た場所は海が遠かったんで、獣相の種類が山のタイプから海のタイプに増えているっていうのが一番目新しいかも。

個人的に嬉しいのはフルーツが豊富ってとこかなあ、やっぱり。

お菓子みたいな甘い食べ物が基本的に少ないから、あっちこっちにフルーツ盛りだくさんになっているのは嬉しい限りだし。

何気にお菓子は高級品なんだよね。

糖分を摂取しようって思ったら、指みたいに細い竹を齧るのよ。

気分はサトウキビを齧ってるようなもんだけど、これが乾涸びた草加センベイより硬くて硬くて、私の歯はそこまで頑丈じゃないからいつも叩いてもらって嚼つてたわけ。

そっぴいやお客さんに、見つめながらしゃぶって……嚼つてだっけ？ 妙なお願いされたこともあったなあ。

ここの人達のツボがマジで分かんないわ。

いやあ、それにしても暑いわあ。

常夏のハワイですかっけ感じ。

お肌の染みとか気になる年頃なんで、館の外から出る気がおきません。

そんな私を見て新オーナーさんは感心しながら頭撫で撫でしてくれましたけどね。

お菓子もよくくれるけどね。

だってねえ、あんな目にしょっちゅう遭わなくちゃいけないなら、もうずっと大人しくしてますからって気にもなるでしょう。

私、無駄に痛い嫌いだし、日焼けしてもいいけど染みは作りたくないし。

売春宿から別の場所へ売られる道中に襲撃されて、勝った襲撃者に人生二度目となる拉致で連れてこられたのがこの娼館。

青い海に白い壁。まるで地中海に來たみたい。って感じの街だね。

街もね、町じゃなくて街って感じだし繁華街の外れじゃなくて真ん中だし。

前の売春宿より劣悪な環境じゃなければいいなあとは思っていましたが、何と売春宿から娼館にグレードアップしちゃいましたよ。

売春宿にも色々とランクがあるらしく、世話になっていたのは売春宿でもランクは良い方だったみたい。

売春宿よりもグレードが高いのが娼館。

ここは上中下で分けると上より劣って中より良いって辺りになるのかな。

まあ、やる事は変わらないけどね。

いやあ、ココ良いわあ。

何せ、仕事とプライベートの部屋が分かれてるってだけでもポイント高いよね。

壁だって血飛沫の跡ですか？ なんて染みもないし、そこそこ綺麗だし、タンスの棚が傾いていないし、ちゃんと引き出しがスムーズに出し入れできるし、シーツは勿論自腹じゃないし、生活用品も支給してくれるし、良いわあ。うん、良いよお。

一〇〇万と吹っかけられた林檎を一万に値引きしてもらって喜んでいるような気もしなくはないけど、うん。ここで暮らすんだし、悪くはないね。

やる事は変わらないけど。

給料も二倍になったしね。

雀の涙が一粒から二粒に増えたってだけなんだけど、二倍は二倍だし。

繁華街の真ん中にある店だから、物価も二倍だけだねっ！

まあ、自腹が減って支給品は増えたから文句は言わないでおこう。自腹で買うとしても衣服や下着、装飾品に嗜好品なんかだしね。しかし、暑い。

北から南へ一気に来たから少しへばってるのかな。

湿度はそんな高くなって気温が高いって暑さだからまだマシだけど。

風で涼もつかと窓際で頼杖ついてウチワを扇いではみてんだがあんまり効果ないなあ。

お、ミノタウロスさんが窓の下を歩いている。

ギリシャ神話に出てくるミノタウロスの絵にほんとそっくりなんだよね。

お、さすが護衛。気配に敏いね。

手を振ってしんぜよう。って、目が合ったのにさっさと行くし。

彼、新オーナーさんにとっても忠実で、ここまで私を連れてくる道中とつても紳士だったんだよね。

襲撃の後で血が滾っちゃった他の連中を諫めてくれたし。

姐さんや妹分とお客さんから貰った物や、なけなしの三万円も一緒に持ってきてくれたし。

いやあ、良い人だよ。

拉致られたけど。

連れてこられたここでも、やる事は一緒だけど。

我ながら少ししつこいな。

他の仕事ができるば良いんだけどねえ。

裁縫だってミシンなんて当然ないから手縫いなので雑巾以上は無理だし。

料理もねえ……料理はねえ……。

すっかり売春宿の厨房で食材を見てから、二度と絶対に厨房には行かないって決めたし。

口には合うんだよ。

美味しいとも思っただけど、ムとかシとか原型は無理。

思い出ただけで鳥肌立つっつ。

世の中知らなくて良い事は一杯あるし、適材適所っていうもんねっ！

私は料理人には適してないって事で！

それ以外の仕事も考えはしたんだけど、この娼館みたいにしっかりと護衛がいるような場所じゃないとまた拉致られそうだし、結局どこかで囲われるのには変わりないんだよねえ。

前の売春宿だって一応は用心棒みたいな人いたしね。

どっかの金持ちで護衛が何人もいてセキュリティばっちりの館で秘書……なんて贅沢は言わないけど、メイドとかできればいいんだけどなあ。無理だろうなあ。

そろそろ客も来そうだし、軽く汗を流したら姐さん達んところへご機嫌伺いにでも行こうかな。

北と南だと食事もだし習慣も違ってくるから姐さん達にきっちり教えてもらわないとね。

三年振りの妹分だから今のうちに可愛がってもらおうと。

07・習うより慣れる

よく言うよね。

習うより慣れるって。

こっちに来てから三年というよりもそろそろ四年目という頃ですが、まだ言葉に不自由してるんだけど。

正直、そんな馬鹿じゃないとは思いたいけど、そんな頭がいいってほどではないという自覚はある。

あるけど、必要ともなればそれなりに身にもついてくるわけで、専門用語とか普段使わない言葉なんかは未だに疎いけど片言程度なら会話もできるようにはなったのに。

以前いた北のお店は田舎で、今いる南のお店も田舎なのよねという。

方言の差が結構痛いんですが。

誰か共通語を教えて下さい。

別に馬鹿にしてるわけではないんだろうけど、ちょっと不味い発音すると姐さん達がクスクス笑うんだよねえ。

かなり恥ずかしい。

アメリカ人がEnglishな発音をする日本人を生温く微笑ましく思っているようなそんな空気だ。

ちゃんと正しい発音も教えてくれるんだけど、上手くないかなのよね。

切ないわあ。

ここと前の店しか知らないけれど職場はギスギスした雰囲気はなくて、寧ろアットホームな関係で、ほんと大所帯の仲が良い姉妹って感じ。

姐さん達は妹分の面倒をあれこれ助けて、妹分は姐さん達の手伝いに勤しむというのはどちらも一緒なんだよね。

たまにイヤな感じの人も入ってくるけど、そういう人はあまり長居しないし。

どこへ行ったかは恐ろしくて聞けないけれど。

この手のお店は『人間』が一番高いし、目玉にもなるし、客の呼び込みにもなるからやつかまれそうなモンなんだけど、『人間』だからねえで済まされてしまったりとかってね。

まあ、そこで天狗になってたらいびられそうだけど、というか借金まみれで天狗になるのもどうかとは思うけど、優しくて気の好い姐さん達とはいっても獣相をお持ちでらっしゃるので、うっかり伸びた爪で引つ掻いちゃったの！　なんてやられたら堪ったモンじゃないからね。
したてしたて

下手下手に出てる。

後、お客さんも自分と似た獣相の姐さんを贔屓にしてるから、客の取り合いというのが少ないのもあるのかな。

同じ出身地を贔屓にするような感じ……なのかな？　よく分からない。

姐さんの所へ通っているお客さんが珍しさで私を呼んだりなんて事もたまにあるけど、やつかまれるほど呼ばれないし。

摘み食い程度ならお客さんも姐さんに叱られないし、私も大目に見てもらってるといった感じ？

姐さん達も基本は性格がさっぱりしてるし。

南の気候か、娼館としての質なのかは分からないけれど、前の店よりこつちの方がかなりあつけらかんとしてるようには見えるなあ。

私は『人間』だから獣相のある姐さんや妹分達に比べれば全然体力もないので、一晩にこなせる人数は半分以下だし、殆ど客寄せパンドミたいなところも大きいし。

姐さん達には馴染みがいるけど、妹分はまだついてくれる馴染みが少ない分、『人間』様々効果で集まったお客さん達を妹分達がこなしてあわよくばお馴染みさんになってもらおうというね。

結構上手くてきてるよねえ。

皆に比べればかなり楽させてもらってるので、暇があれば姐さん達の雑用はせつせとこなし、妹分達の面倒はできる限りみているので、色々可愛がってもらってますう。

すみませーん、ほんとに。

妹分といつても私の後に入ってきたのはまだ二人だけだし歳上なだけだね。

ほんと、楽させてもらってますみませーん。えへえへっ。

で、今は休憩中のナイスバディな南国褐色美女に言葉を教えてもらってます。

そのバッキューンな胸はシリコン入ってないんですよ。

自前なんですよ、凄いですね。

リオのカーニバルでもあるんですかっていう衣装なんかもね。親指と人差し指で輪っか作った程度しか布面積ありませんけどね。はみ出てる上乳横乳下乳に目が釘付けですよ。

あ、すみません、ちゃんと勉強しますので爪は引っ込めてください。

ちょっとイントネーションが違ったり、発音というか舌の巻き具合とか挟み具合とか、息の抜き加減を間違えると子供の失敗を楽しんでるように笑われちゃうんだよねえ。

いくら練習しても改善されないからちょっと臍が曲がりそうだ。前に「姐さんは意地悪だ」って言ったら、なぜか目が爛々としちゃってたんですがっ。

他の姐さんにはニヤニヤしながらお客さんに言ってみろって言われるし、怖くて言えるかっ！ 意味教えてよっ！

可愛がってもらってるのは分かるけど、玩具にされてるのが悔しいっ！

あ、すみません。ちゃんと集中します。教えて下さい。

早く不自由なく言葉が喋れるようになりたい。

08・棚から牡丹餅

よく言うよね。

棚から牡丹餅って。

今、私の目の前には焼き菓子がある。

バスケットに盛りだくさんの焼き菓子である。

いい匂いだ。堪らんつ。

フィナンシエっぽい焼き菓子で、匂いに少し癖があるんだよね。

フィナンシエは焦がしバターとアーモンドの香りが独特のお菓子だけど、これはなんだろ。

ナッツみたいな甘い香りがするハーブを混ぜたバターのせいかな。材料を確かめる気なんてこれっぽっちも無いけどね。

サイズもフィナンシエより大きくて掌くらいはある。嬉しい。

食感はしっとりしてて香ばしい。美味しい。

ポソポソした感じもないし、これ何の香りかなあ。

最初、この香りにびっくりしたんだけど、今じゃこの香りでなくっちゃんと思うくらい癖になってる。

変なの混じってないといいんだけど。

まあ、この街で有名なお店のお菓子らしいし、姐さんがお詫びにしてくれたお菓子だしね。

.....

これは棚から落ちた牡丹餅と思っていいのだろうか。

一応、お詫びだし。

そう、お詫びなんだよね、これ。

焼き菓子をくれた姐さんにせっつかれて、お客さんに言いましたよ。

部屋に入ってきたから教えられた通りに挨拶をしたんだけど、目を見開いて興奮とか喜びで打ち震えていたって感じだった。

とにかく、凄い喜んでた。何でなのか未だに分からない。

あまりの喜びっぷりにドン引きしてたら、いきなり手を取られて
んで思わず払いのけちゃったのに更に喜んでた。

分かんないっ！

その後ちよつと残念そうな顔だったけど、至つて普通にお支払い
までの流れをこなしたまでは良い。

それで、翌日にプレゼントが贈られてきたのよね。

犬の獣相を持つそのお客さんは軍人なんだか階級職っぽいお硬い
雰囲気の人で、その日は三回目で多分これからも臍屢にしてくれそ
うだなあとは思っていたのよね。

普通は五回以上通ってくれて気に入ったらプレゼントを贈ってく
れたりするのに、三回目でプレゼンってかなり気に入ってもらえた
んだなとは思った。うん。

ただ、プレゼントが……どう見ても鞭なんだけど？ どういう事？
ちよつと軽く机を叩いてみるとパシッて良い音がしますね。

思いつき叩くとかかなり痛そうな音がしますね。

試しに自分の手の甲も軽く叩いてみるけど……うん、加減によつ
ては手の甲に傷ができるね。

これで何させるつもりなのかな？ ん？ 察するスキルは持つて
るよ？ 大人だから。

長さは指から肘までより少し長めで、握る部分はしっかりと作ら
れてるし、鞭の先は細長くて小さい長方形の皮がくつついてる。

見た目、私の知っている乗馬用の鞭っぽい。

うふふっ。

姐さんにコレ持って、何を言わたのか詰め寄つてみたけどお腹
抱えて笑うだけで教えてくれないし、他の姐さん達も教えてくれな
いし、妹分達も教えてくれない。

すんごい、ストレスなんですが！

ブン剥れてたら拗ねないでって姐さんがお詫びとしてお菓子をく
れたんだけどね。

「ご機嫌伺いのお菓子よりも言わせた意味を教えて欲しいんです
！」。

とは言っても、これだけあると一人じゃ食べきれないし後で皆に
分けておかなくては。

保存料なんてないからねえ。

それにしても一体何を言わせたんだろうか。

この鞭をくれた客の次回来店が恐ろしい。

用途の想像が容易くできるだけにマジで恐ろしい。

私、そういう趣味これっぽっちも無いんですけどっ！

取り合えず先にお菓子を配ってきちゃおう。

はっ！そこに行くのはミノちゃんじゃありませんか！ 待つて

！ ミノちゃん、待つて！

ミノちゃんとは何かつて？

細かい事はどうでも良いのよう。

これ、お菓子のお裾分け。

うん、貰い物なんだけど一人じゃ食べきれないから。

美味しい？ よかった。ところでちよつと聞きたいんだけどね？

いやいや、お菓子のお礼に教えてくれていいのよ？

『ようこそいらつしゃいました。今夜は宜しく願います』っ

てどついう意味？

って、何で咽^{むせ}てんの？！ ちよつ！ 逃げるなっ！

お菓子食べたんだから教えて！ 狡くない、狡くない。諦めて教

えてよっ！

え？ 耳を貸せ？

何々？

犬の分際で『人間』様へまともに挨拶もできないなんて……駄犬
ね。

ですと？

ジーザス！！

09・毒を食らわば皿まで

よく言うよね。

毒を食らわば皿までって。

半年前に犬の獣相をしているお客さんからプレゼントで貰った鞭ね。

確かに鞭だった。うん。用途も鞭だったね。

犬のお客さんがお馴染みさんになってくれたのは嬉しいけどね。チップも凄い弾んでくれるしね。

あれから、犬のお客さんがくるたびに「駄犬」呼ばわりで心臓に悪いったらありやしない。

鞭もね、何気に手に馴染んだりしてるもんだから、つい手遊び^{てすさ}しちゃってるのがよくないとは思ってたんだけど、お客さんが足元跪いたりするんで、止めて下さいとか言いながらつつい横着して額をぐりぐりしちゃうんだよね。

顔を上げて下さいっ！なんて近寄ると、そうじゃないでしょ？とか言って笑顔で窘め^{たしな}られちゃうし。

ぐりぐりするとチップ弾んでくれるし。

頬を軽く叩くと更にチップが倍ってね。

ははっ……………はあ。

お友達なんかも紹介頂いちゃったしなあ。

お前、友達じゃなくてそれ仲間じゃん？とは思ってたけどね。

豚の耳と尻尾がキュートなお友達さんもお鼻屑になってくれましたで、初回にいらした翌日に最高級の皮紐くれましたよ？縛れと？

亀甲縛りなんて知りませんよ。

だから私、その手の趣味はないんですけど豚野郎と罵れば良いですか？

暴力反対なんです私。平和主義者なんです。痛い目に合うのも合

わせるのも好きじゃないんです。寧ろ嫌いなんです。大人なんだから察してください。無理ですか、そうですか……。

せつつかれたから小さい声で豚野郎と言ったら駄目出しされたし。ちよつとイラツときたので持たされた鞭を思いつきり机に叩きつけたらその調子！ とサムズアップで誉められてお尻出されるし……もうイヤだ、こんな客。

オーナーに文句言っても凄い良い笑顔で肩叩かれた上に頭撫でられてお菓子もらった。

子供じゃないんでいい加減お菓子で釣るの止めてもらえないかな。………それとも、またトンチンカンな事を言っているのか？

『あんな客受けるな』が『お菓子頂戴』になっているのか？

ここまで頑張ってきたけど、心が挫けそう私っ。

犬さんが更に仲間の山羊さんを紹介してくれて、豚さんは蝙蝠さんを紹介してくれて、今じゃその手のお馴染みさんが四人に増えたし。

でかしたとオーナーには誉められても、私はあまり嬉しくないんだけど。

今度また紹介してもらえらしいし。

蝙蝠さんなんて顔色悪いし骨が浮き出てそうなくらい細いし、傷なんてつけたらいつそう痛々しくなるから土下座して勘弁していただきたいのには是非にと迫られるし。

苦肉の策で四つん這いの背中に座ってハイドーハイドーですよ。

本人満足してるようだし、私も肉体的疲労は無いんで楽と言えば楽なんですけどね。

精神疲労半端ない。

洋服もプレゼントして貰ったけど、一度だけ見てそれっきり二度と箱を開けてない。

というかあれ服じゃないだろ。いや、一応服なのかもしれないが、布じゃなくて皮だし。

着てくれないのかって聞かれたんで、咄嗟に『何様？』って返し

たらよしよしと笑顔で頷かれたし。

私、育てられてるの？

この四人、結構階級も良くて金払いも良いらしから、オーナーが新しい部屋作っちゃおうかなってワクワクしてたんだけど。

お客さん達も喜んでお金出すとか言ってるみたいだし、特別仕様の部屋とかマジで勘弁して欲しいんですが。

それとも、諦めて極めるべきなんだろうか。

こんな事で真剣に頭悩ませる日があるとは思わなかった。

何とか回避したいっ！

職業選択の自由を下さいっ！

10・嘘から出た実

よく言うよね。

嘘から出た実って。

実は私、亡国の姫君なんです。

父親は国王、母親は後ろ盾もない最下級貴族。

お金や地位が揃っている腹違いの兄や姉が両手では足りないほどいる中で、王位継承権にも程遠く、政治的材料としても乏しい立場です。ですと虐げられてきました。

しかし、突如襲ってきた敵国に王は討ち取られ、逃げる最中に囚われた私は辛くも命だけは助かったものの奴隷商人に下げ渡され、娼婦にその身を賣^{やっ}す事となりました。

再び故国を再建する事だけを生甲斐に、私はこの地獄の日々を過ごしているのです。

ですが、その一方で姫でなければ……と、大空を舞う鳥を見上げては詮無き事を思ってしまうのです。

これが巷で出回っている私のプロフィールの詩らしい。

うん、詩。吟遊詩人が歌ってるんだそうで。

へええ……………。

最近、どこかの国が滅んだりしたんですか？

亡国も何も、私の実家はまだあると思うし、天皇陛下もご健在ご健勝の事と存じますが、生憎私は江戸から代々品川で魚屋を営んでいた家系の流れでして、父はサラリーマンなんですけどね、てやんでえべらんめえなんですけどね？

菊のご紋とはこれっぽちもご縁ありませんけど？

何で、亡国の姫君？

というか、十人以上いた兄やら姉やらはどこ行っただの？ 何で末

端の私が再建すんの？

ミノちゃん繋がりでケンタウロス風味な護衛のケンちゃんとも仲良くなつて聞いた話ね。

吟遊詩人達がこぞつて詩を作ってくれてるそうで、近々続きができあがるらしいですよ。

私でさえも知らない、私の半生を綴った可哀想な詩が。

……………へえ。

というか、こぞつて何？ コンテストでもあったの？

人をダシにしないでもらえるかな。肖像権請求するわよっ！

何でも憂い顔で空を見上げていたのが発端らしい。

あそこの娼婦はいつも窓から外を見ている。何て可哀想な表情なんだろう。

元からこういう顔なのよ、ほつといてよ。

暇だから確かに外をしょっちゅう見てましたよ。股関節のストレッチをしながらねっ。

ケンちゃんが更に続きを教えてくれたんだけど、その内容が本当にヒドイ。

聞いたところによると、客と言葉を交わす気もないのかいつも一言二言らしい。

身売る仕事だから仕方ないさ、自分の境遇を嘆いているんだろっねえ。

いやいや、何でもとある金持ちの家で落ちぶれた拳句に娼館へ行き着いたそうじゃないか。

おや、とある貴族が没落してという話だぞ？

俺が聞いたのは亡国のお姫様という話だったぞ。

一緒に落ち延びてきたお付きの人が平民と口を聞くなと言っていいらしいじゃないか。

乳母ではなくて臣下がお姫さんを御旗に担ぎ上げて故国の連中を集めているんだってな。

だから、お姫さんは再び戦争にでもなったら心配で空を眺めて

んのかな。

それだ！！

どれだよ！！

身振り手振りで声色変えて演じてくれたケンちゃんの熱演には一応拍手を贈っておいたけどさっ。

居もしないお付の人が乳母へ、そして臣下へと変化してるし。

部外者立ち入り禁止ですから、ここ！

それにお姫様すつとばして女王様だから、私。

.....。

言葉が少ないのは単に喋れないだけだし、喋れるとしても『挨拶もできないお馬鹿さんなの？』になっちゃうしっ。

こっちに来てかれこれ五年目になろうかってところだけど、三年かけて漸く片言から抜け出せるかと思つた矢先に場所が変わって一から言葉の覚え直しだったし。

大体、共通語で『おはよう』が北だと金沢風に『おひんなり』で南になれば沖縄風に『うきみそーちー』とか、全然音が被ってないのに直ぐに覚えられるわけじゃないじゃないかっ！

この娼館に来てから早一年、そんな環境にもかかわらずだいぶ滑らかに喋れるようになってきた私。

日常会話以外がね。

挨拶と片言での意思疎通もどきはできるようにはなったけど、まともな日常会話は片言なのかも怪しいし。

言葉の先生が例の連中で、五人から更に二人増えて七人なので、その手の言葉だけは淀みなく発音できるようになりました。

全然嬉しくないけどね。

寧ろ、日常会話教えてくれないかなあ。

最近、姐さんや妹分達が厳しい表情でひそひそと話してるんだよね。

悪口を言われているわけじゃないんだけど、何かあったのかって聞いても子供は気にしなくていいのよな表情でやんわりと追い遣ら

れるし。

ミノちゃんもケンちゃんも似たようなもんだし、たまにオーナーも一番上の姐さんと話し込んでるしなあ。

そんなんだからか、特別仕様の部屋はお預け状態なんで喜びたいところではあるんだけど素直に喜べない。

それに、犬さんと豚さんと山羊さんが顔を見せない。

何か関係あるのかな。

聞いても教えてもらえないし、ずっと蚊帳の外っていうのもねえ。無駄なプレゼントだけは贈られてくるから元気ではいるんだろうけれど。

来たら来たらで鬱陶しいのに、さっぱり顔を見せなくなると妙に心配になる。

伝言でもお願いしとこつかな。

11・足元に火がつく

よく言うよね。

足元に火がつくって。

この世界には地図がない。いや、あるけど持っているのは特殊な職業や運搬に携わる専門職の人達だけで、一般人はまず持たないし下手したら一生見ないまま^{へた}って人はいるんじゃないかな。

現に私も見た事はない。

なので、世界が、大陸がどんな形をしているのかは知らない。

この娼館がある街は南と言われたけれど、気候からしてもそれは分かるんだけど、実際に南のどの辺りなのかまでは知らないんだよね。

港町として栄えているのかな。

娼館の窓から見る限りだとかなり大きな船がいくつも停泊しているから港も結構大きいんだろうね。

港の近くは漁業関係に輸出入関係の会社、後は関税とか取り締まりやら船陸交通に携わる事務所と安めの宿泊施設があるんだって。

この娼館のある繁華街は港から少し離れているんだけど、飲食店や高級宿泊施設にお土産屋と大変賑わっている。

それ以外にも賑わう理由があったのかもしれない。

昨日、オーナーに呼ばれて荷物を纏めるようにって言われたんだよね。

戦争が始まるんだって。

お客の犬さんと豚さんと山羊さんが顔を見せなくなったのもその為らしい。

ここも戦火に見舞われる事になりそうだから、私を始めか弱い小型草食系や小鳥系の獣相を持つ姐さん達と一緒に別の国へ疎開する事になったんだって。

オーナーのお兄さんが経営している隣国の娼館なんだけどね。

肉食系の獣相を持つ姐さん達と妹分はもう少し残るみたい。

それと、巷^{ちまた}に出回っている私の出鱈目プロフィールが妙な刺激剤となつて、街の人が娼館に押しかけてくるかもしれないから急げとも言われた。

敵国が攻めてくるのは亡国の姫君を狙ってるんだとか、奪回するためなんだとか、これまた曖昧な噂に色々と尾ひれがついて回っているそう。

一時間で荷物まとめましたよ。

自分で買った荷物って殆どないんだけど、お客さんから貰ったブレゼントはちよつと嵩張る程度で姐さん達や妹分の荷物に比べたらそれっぽちなのか？ と言われるくらいには少ない。

二度と見るかと思つたアレやソレな服も一つの箱にまとめたしね。忌々しいんで戦争で焼かれちゃつたの……とか言つて捨ててやるうかとも思つたんだが、もしかしたら疎開先で売れるかもしれないし。物は最高級品だからね。

私物を全部持つていける程度には時間にも余裕あると言われたんで、ここのんびりとした気分ではいられるんだけど、戦争なんて縁がなかったからやはり不安になつてくるなあ。

姐さん達は相変らず男前で余裕な笑顔をしているので、大丈夫なのか？ とも思えてしまう。

もしかしたら私達が不安がらないようにって気配りだったのかもしれないけれど。

できる事ならこんな仕事はしたくないけど、仕事以外では本当に恵まれてるんだよね私。

加減を間違えてちよつと乱暴に扱えば死んじゃう『人間』だつてもあるんだけど、メンタル面でも姐さん達に可愛がつてもらつたし、前のオーナーも今のオーナーにも分を弁えていれば大事な商品として扱ってもらえたし、お客さんも……まあアレだったけど世話してもらつたし。

すっからかな自分はいつも貰うばかりで何もしてないなど。
急な別ればかりで菓子折りの一つも買えないし。

残る姐さん達と妹分には急いで挨拶にだけは行ったけどさ。

一度で皆が移動する方が危ないから、小分けて移動するし後でまた会えるとも言われてもちよつと泣けてくる。

まあ、そんな訳で三度馬車みたひの中でガタゴト揺られてるんですけどね。

皆、馬もどきに乘れるんだけど私は乗れないので荷物と一緒に。

私と四人の姐さんに五人の護衛と馬車二両。

そこそこの団体だから目立って襲われたりしないんだろうかと聞いたたら、一般的に移動となるとこの程度は普通らしい。

今回は襲われないといいんだけどな。

どれくらい掛かるのか聞いたたら、早ければ十日、ゆっくりでも二週間くらいなんだって。

特別にミノちゃんから地図を見せてもらったら、鹿児島最南から関門辺りまでの距離っぽい。

今回、ミノちゃんとケンちゃんが一緒なのでかなり心強い。

後、虎の阪神君も頼れそうだ。

コアラとか驚とかいれば……いや、野球は興味ないけどね。

東京の夜空とは違って、こっちはやっぱり星が凄いや。
皆と早く会えるといいなあ。

12・切る手遅かれ

よく言うよね。

切る手遅かれって。

戦争が始まるって話は、耳の早い人だととくに聞いていて、ちらほらと街から離れつつあったらしい。

オーナーはお店の事もあるんで、早々に動き出した人達に比べたら二番手辺りの早さで私達を送り出してくれた。

中流以下の一般家庭や貧民窟辺りだと、そろそろ噂が出回る頃かって感じみたい。

それでも、何となく落ち着かない空気は感じてんじゃないかな。

昨日まで見下ろしてた街は何となく普段に比べて賑わってないように見えたから。

夜になっても繁華街だから娼館の近くはそこそこ明るいし、店も営業中なので裏口からひっそりと出発したんだけど、街の外れで少し小競り合いがあったんだよね。

戦争の元凶らしい亡国のお姫様を狙ったのか、早々に街を捨てる連中の家財を狙ったのかは分からないけど、腕の立つ護衛だし相手の人数もそう多くなかったみたいで直ぐに片は付いてしまった。

勿論、私は馬車の中で毛布被ってましたけどね。

不安になったのはその一回だけで、街を出てから今日で七日目。かなり順調な旅を送っておりましたよ。

途中、野宿したり、小さい村や町に立ち寄って宿に泊まったりってね。

私は何もみませんので、文句なんて恐れ多くて口にできませんけど、舗装も適当な悪路を進む馬車はなかなかハードだった。ええ、口にはしませんけどね。ハードだった。

ご飯も護衛さん達が作ってくれるしね。

宿に泊まる時も扉の前に立っててくれたり。

これは不審者が近づかないようにっていうのと、私達が逃げ出さない為だったのかなって思った。

まあ、私は逃げ出したところで行く宛てもなければ、やっていけるほどのお金も常識もないしね。

それ以前に、まともに喋れないし、漏れなく野垂れ死になるだろ
うからそんな気にもならない。

元々、売春宿や娼館で働く人達って、性しょうに合ってる人や手っ取り早くお金を稼ぎたいって人が極一部で、多くはないけど私みたいに攫さらわれて売られてきた人、後は借金の形に売られてきたってパターンか。

借金の形で売られてきた人の殆どはもう諦めちゃってるところがあるんだけど、諦めきれないのが攫われてきた人達でたまに脱走とかしでかすんだよね。

直ぐに捕まってきつい折檻受けるのに、それでも諦めきれずに逃げ出しちゃう気持ちは分からはないけどさ。

私の二人前に入った姐さんで、リスみたいに円らな瞳が可愛いタイプだったんだけど、見た目同様性格も気弱な人で限界だったんだろうね。

気持ちは分かるが、今は姐さんが恨めしくて仕方がない。

リスの獣相を持つ姐さんがトonzラしやがった。

お陰様で只今全力疾走する馬車の中、舌を噛まないように布を啜すすえて兎姐さんと必死に抱き合っておりますよ！

護衛さん達も必死に頑張っております。もつと頑張れ。

いや、馬もときよ。君には特に頑張ってもらいたい。

私達の後ろには、直径一〇センチ、全長三メートルはあるかっていう真つ青なミミズもどきの団体様がすごい勢いで追っかけてきてます！

盗賊の方が断然マシなんですがっ！マジ怖いんですけどっ！
チラ見したらパクパクする口の中一杯に小さな牙が生えてました！

口の中三六〇度歯です！ 喉がどこにあるか知りませんが、奥までぎゅちりみゅちり歯です！

疾走する馬もどきに負けない速さですよ！

馬車を繋げてなかったら逃げ切れそうだけど、荷物積んだ馬車だからかなり際どい。

馬！ 頑張れ、馬っ！ お馬様、心よりお願い申し上げますので頑張ってくださいっ！

ああっ、何であの時リス姐さんに声を掛けなかったんだ私っ。

リス姐さんもばっくれるならもっときゅちりと計画立ててよーっ！

13・川を渡り船を焼く

よく言うよね。

川を渡り船を焼くつて。

次の村だか町までにはまだ距離があつて、今夜は鬱蒼とした森の中で野宿するらしい。

日も沈む頃だから辺りもだいぶ暗くなつてゐる中で野営の準備をしていた護衛さん達の仕事を眺めていたら、リス姐さんが茂みの中に入つて行くのが見えたんだよね。

まさか逃げるなんてこれっぽちも思つてなかったから、トイレだつて普通思ふじゃん。

さてそろそろご飯の支度でもしますかつて頃に、リス姐さんが居ないつて事に気付いてそれからが大変だった。

ケンちゃんとミノちゃんがリス姐さんを探しに出掛けてどれくらいだろ。

ちよつと不安になつて兎姐さんと寄り添いながら、阪神君へ切実なるご飯への思いを眼力で訴えてた私。

頻りに視線を逸らす阪神君とそんな熱い遣り取りをしていた中、遠くて小さかつたけれど悲鳴が聞こえたんだよね。

キヤーとか絹を引き裂く悲鳴なんて可愛いもんじゃなかった。

断末魔かと思えるような必死の金切り声だった。

その場に残つていた三人の護衛達が途端に険しい表情になつて、ミノちゃんとケンちゃんが消えた方向を見据えていたけど、何かに気付いた阪神君が兎姐さんと私を馬車へ乗り込むよう言つてきたから素直に従いましたよ。

兎姐さんも表情強張つてゐるし、ここで何だ何だなんて騒ぐほど私だつて馬鹿じゃない。

阪神君の指示で一旦は馬車から外した馬もどきを御者の人達も慌

てて繋げ直したところへ、ミノちゃんとケンちゃんが凄いい勢いで現れたんだよね。

そこからは早口で何を言っているのかは分からなかったんだけど、切迫した空気だけは分かった。

兎姐さんを見たら顔が真っ青だし、何が何だか分からないでいたら突然馬車が走り始めるしで、あわあわしていたら兎姐さんに口の中へ布を突っ込まれまして、何すんだ！　と思った矢先に押し倒されて凄いい焦った。

悪路を疾走する馬車だから、弾んだ勢いで外に飛び出ないように掴まれて意味に気付いたのはちよつと後だったりしたんだけどね。布も舌を噛まないようにして事だったし。

こんな時に何を？　　とか思ってたすみません。

一体何事なんだと不安になりながら小さくなる焚き火を見ていたらアレが出てきたのよ。

足がないから体をくねらせてるんだけど、そのスピードがホラーだった。

パクパクする口は寧ろガチガチって歯を鳴らしてる感じで口の周りが赤く濡れてた。

逃げ出したリス姐さん、遠くから聞こえた悲鳴、慌てて戻ってきたミノちゃんとケンちゃん。

説明されなくてもリス姐さんがどうなったのかは何となく想像がついた。

思わず兎姐さんにしがみついたら無情にも腕を引き離されて馬車の枠へ押し戻されてしまった。

たびたびすみませんっ！　でも怖いんですっ！

こんな化け物が居るなんて聞いてないし、知らないんですっ！　しんがり走る護衛さんまで、三馬身か四馬身って辺りまで距離を詰められちゃってるよ。

このままじゃ間違はなく追い付かれるし、どうすんだって思ってたら姐さん達が乗っていた馬もどきの一頭の首をいきなり掻き切っ

た。

疾走していたために勢いよく血飛沫が飛ぶ中、前足が宙を掻いて踏鞴を踏むようによろけた様子がやけにゆっくりと見える。

馬もどきが地に倒れ込む前にミミズもどきが飛び掛かるように群がって、忽ちその姿は見えなくなっただけで、肉を喰いちぎる音や骨をも噛み砕く音が聞こえた気がして思わず顔を背けた。

自分達が助かるためには仕方ないけど、仕方ないんだけど、嫌な気分だ。

何もできないんだから奇麗事を言っつもりはないけど、ごめんって言葉が頭を占める。

もう大丈夫だと、逃げ切れたんだと安心できたのは朝日が上って辺りが明るくなった頃だった。

14・始めが大事

よく言うよね。

始めが大事って。

ミミズもどきから何とか逃げ切った二日後に西の国の国境を越えて、それから更に四日掛けてオーナー兄が経営している娼館に辿り着きましたよ。

遠かった。もう絶対馬車には乗りたくない。

十三日間ずっとヘッドバンギングだわ、逃げるときは疾走しすぎてヘビメタのライブかって感じだし、頭振り過ぎで脳みそ崩れるかと思った。

ムチウチになってないと良いんだけど。

お尻も腰も痛くなったのは馬車のせいで、けっして歳のせいではないはずだ。

ミミズもどきの後は至って普通で……いや、普通でもなかったかな。

国境の検問でちよつとすったもんだしたんだっけ。

国境なんて一応それなりに賑わってはいるといっても留まる場所ではないし、どことなく野暮ったいらしい。

兎姐さんは肌の色も白いし、髪も真っ白、目が赤い可愛いタイプの美人だし、私は珍しい『人間』ですから？ 検問時に通して欲しければサービスしてよとあったわけで、まあ役立たずの私でよければと腰を上げたら、兎姐さんに懇々と説教されました。

別に見ず知らずの方とほいほいするほど大好きなわけじゃないんだけど、今更だし一回くらいだしそれで事が済むならと思ったただけなんですがね。

自分を安売りするなど。

いくら身売る商売とはいえ、ばら撒いてどうする。高い商品で

あるという自覚を持てと。

売るなら高く売れとか、娼婦についての心構えというんですか？
そんな説教を正座で聞かされましたよ。

ええ、ごもつともです。ごもつともなんですが。

兎姐さんは獣相が少ないタイプでかなり『人間』に近い。

上唇が少し割れてて猫のふぐ……いえいえ、そう！ オメガの記号みたいにか愛らしい口をしてるんだよね。

私よりも小柄で目もくりくりで大変可愛い方なんだけど、真面目な顔をして説教とか似合わない上に、そのふ……でなくて割れた唇が柔らかそうなのがまたなんとも言えないというか、フニフニしたいなとか。

説教されている間、モグモグする口から目が離せなかった。
けっしてそういう趣味は持っていない……はず。

結局、私が説教されてる間に護衛達は頑張ってたけどラチが明か
ず、兎姐さんが話をつけてくるからと出かけて一晩。

戻ってきたときは、やけに艶つつやで上機嫌だった。

その代わり、検問の人達はゲツソリしてたけどね。

単に自分が……と思わなくもなかったが、そこは兎姐さんを立て
る分別くらいは持つてるよ！

兎姐さんはこの仕事に性に合ってるというって働いている珍しいタ
イプだしね。

足止め食ったのはそれだけで、後は幾らか舗装されてマシになっ
た道を進んで到着したのが地方の中小都市並に賑わっている街。

一番最初に世話になったオーナー弟の娼館は賑わっているリゾート地って雰
囲気だったんだけど、ここは都会って感じがするなあ。

同じ石造りの建物でも、オーナー弟の店もそうだったんだけど、
白い壁が基本で赤や青や黄色とカラフルな屋根が地中海風で、こっ
ちはヨーロッパ風の石造りなんだね。

見た目が重厚。

天気いいとそうでもないけど、雨降ったらどんよりした感じがイギリスっぽく見えるような？

前のところは暑い気候もあってか道行く人達の服装もラフだったけど、こっちは少しフォーマルっぽいなあ。

アロハみたいな軽いシャツじゃなくて、もう少し厚手のシャツを着ているし、何となくオシャレに見える。

同じ陸続きでも南と西では随分街の雰囲気も違ってくるもんだなあ。

まあ、当たり前か。

出迎えてくれたオーナー兄は弟によく似ていて、弟のナンパで明るくて甘い雰囲気がイタリアンっぽい雰囲気に比べて兄はゴツ可愛い感じた。

但し、熊だけど。二足歩行できちゃう熊だけど。兄弟揃ってゴツいけど。

顔が大きいのに目が小さくて円らなのが可愛い。

たまにいるよね。ごつつい体型でちょっと強面なのにマッチが瞋毛に何本も乗っちゃうような男の人。

赤いジャケットでなくてミニTシャツに蜂蜜のツボを小脇に抱えて毛も黄色くすれば忽ち子供達に大人気となるに違いない。

一部の女性からも大人気となる事請け合いだ。

ミノちゃんと少し話した後に私達のところへ来たのはいいが、何で私だけお菓子を貰って頭を撫でられるのだろうか。

一応、これから世話になるので頑張って挨拶したご褒美か？

兎姐さんとは熱い抱擁とベーゼだったのに。

目の前で頬をもごもごさせる熱いのは勘弁して欲しいの。いや、して欲しいわけではないけれどね。何となくね？

一瞬、兎姐さん食べるのかと焦った。……別の意味で召し上がるんだらうなあって感じではあったが。

馬車が横付けされたのは建物の裏口で、中へどうぞと通されたんだけど、裏口なのに豪勢な作りをしてた。

後でこつそり表玄関も見せてもらったけど、大きなホールで開放的だし豪勢なシャンデリアがぶら下がってて眩しかった。

ランクで言ったら上級の娼館になるらしい。

そしてそして！ 棲家がグレードアップしたっ！

勿論、客室私室は別ですよ！ 備え付けの家具も、普通の家具からオシャレなデザイナーズ家具っぽくなって。テンション上がる！

着いたばかりだからと三日間お休みももらえた！ オーナー兄良人だ！

護衛達は三日後にオーナー弟の所へ戻るんだって。

他の姐さん達を連れてこなくちゃいけないしね。

リス姐さんの事はアレ以来誰も口にしてないからそういう事なんだろうと思う。

気の毒だとは思うし薄情だとも思うが、どうしてあの時って後悔するほど余裕なんて誰も持ち合わせてないからいつまでも引きずってられない。

仕方のないことだったんだって気持ちを切り替えなければやっていけないし。

取り合えず、これから世話になる姐さん達へ挨拶回りをしなければ。

後で、ミノちゃんに付き合ってもらってお菓子を買ってこよう。

媚びるわよ！

15・好機逸すべからず

よく言うよね。

好機逸すべからずって。

到着したその日にちよつと休んでからオーナー兄にお菓子の美味しいお店を教えてもらい、ケンちゃん引き連れて買い物に行ってみましたよ。

ミノちゃんは護衛のリーダーだからオーナー兄と何やら話があるらしく、ケンちゃんが代わりにについてきてくれた。

背中乗せてもらえたんで楽チン楽チン。

その後は早速新しい職場でお世話になる姐さん達に挨拶回りですよ。

お菓子は安くないけど甘い物を渡しておけばまず間違いないし、何とかお菓子を買うくらいは貯め込んである。

中にはねちっこいタイプの人もいるけど、基本姐さん達はサツパリしてる人か人生儚んで物静かな人が多いんだよね。

心付けなんてしなくよさそうだけどここは女社会だ。

やり過ぎもよくないが、しないでいるよりしておいた方がいいもんね。

持ち込んだ荷物も片付けが済んだ休暇の最終日にオーナー兄から呼び出しを受けて、個別の身体検査ですか！ とドキドキしてしまった。

いらぬドキドキだったけどさ。

二人のオーナーのお世話になったけど、オーナーが商品に手を出したって聞いた事も見た事もないんだよね。

ありそうなのに、と思うのは偏見かしら。

個別で呼ばれたので色々と緊張していたのに、まあお座りなさいと高そうなソファへ勧められてお茶とお菓子をご馳走してもらいな

がら、大変だったねえみたいな世間話で三〇分。

緊張していた分拍子抜けもしたんだけど、一体何がたくて呼び出したのかさっぱり見当がつかず「はぁ」「ええ」「はぁ」の繰り返し。

単なる話好きな熊か？ とちよつとダレてきた頃にやつと話を切り出してくれましたよ。

実は、専門職のお仕事があるんだけどやってみない？ と。

まあ、言葉が不味い私ですので、それはそれはゆっくりと、北と南の言葉を交えながら分かり易く話をしてくれましてね。

何となく雰囲気的に赤ちゃん言葉で喋られてるような気にもなりませんでしたね。

専門職の意味が分からなくて困った顔をしていたら、話すより見せた方が早いと思ったのか取り出してきたのが鞭ですよ。

はい？ え？ 何でソレ？ 今ここでソレ出すの？

前の店でやってたんでしょ？ って。ええ、不本意ですが確かにやってましたけど、私素人ですから！

というか、誰に聞いたんだっ。オーナー弟か！

いやいや私そういう趣味有りませんし、痛いのはするのめされるのも嫌いですからと両手と頭を一生懸命振りましたよ。

お客さん一人に付き特別手当で百万出すよって言われて、間髪を容れず握手してた。

いや、もしかしたら十万……一万かもっ。

でも、一万でもかなり美味しい。

数字の発音が似てるんで聞き間違えているかもしれないけど、単位の万は間違いなく聞こえた！

百万か！ 百万なのか！ としつこく聞いたが百万で頷いてた。

紙にも書いてくれた！ 読めないけどっ！

但し、それなりに教養も求められるので暫くは研修となるそうです。

勿論、研修期間中は無給で、普通のお客も取ったら駄目。

ステータスの問題かな？

専門職で上手くいくようなら一般のお客さんは相手にしないでいいらしい。

お客さんを相手にしないでいいのは楽だけど収入がないのは切ない。

まだ貯金も少しは残っているし、支給品もあるから直ぐに困ることはないけど、合格しないと無給のまんまなんだよね。

でも、一万……いや百万稼げるのは大きいし、これ以上の借金は背負いたくはないんだけど、しかしオーナー弟の店で借金は少しくらい減ってると思うし……………。

というか、私攫われたんだから借金ないんじゃないの？
大体何で攫われたんだろ。

今更不思議に思っただけ聞いてみたら、前の店のオーナーを騙した組合の連中はこの業界でも評判が悪いそうで、阿漕な手口で同業者を騙しては店を乗っ取っているんだとか。

笑顔でムカツクから。みたいな事を言われて、ちよっと一緒になっただけ笑っただけ。

借金についても聞いてみたけど、そこまでは甘くなかった。

一応、攫うに当たっては元手が掛かっているんだそう。

攫ってくれとか頼んでない……とは言えない。

デビューして数年頑張れば返せる額なのと、その時は晴れて自由の身になるとは教えてくれた。

随分と親切に教えてくれるなあと思ったら、逃げない実績を買われたみたい。

仕事の仕事だから、長く勤められるようなものでもないし、時間は掛かってもいずれば自由の身にはなれるんだって。

慈善事業しているわけじゃないから、売られた娘達に片っ端から逃げられてたら店はあつという間に潰れるし、逃げそうなタイプはそれとなく見張ってるんだとか。

当然私も見張られてたわけだけど、外へ誘っても殆ど出ないし、出てもさっさと用事済ませて戻ってくる。

兎姐さんみたいに嬉々として仕事をするわけでもなく、寧ろやる気はないが最低限はこなしているんで、目標を与えた方がいいだろうって判断みたい。

ええ、私引き籠もりですしね、確かにちよつとやる気でましたけどね。

だって百万だし……チップ五十円から特別手当百万だしっ！

やる気出るでしょ！

脱借金生活！ 明日から研修頑張るよ！

ところで誰から、その……仕事のこと聞いたんですか？ オーナ

ー弟ですか？ って聞いたら良い笑顔で教えてくれた。

あんの駄犬があっ！！

16・運根鈍

よく言うよね。

うんこんどん
運根鈍って。

女豹がいます。

.....。

鞭を持った女豹が目の前にいます。

豹の獣相をした姐さんが研修期間中の教師となってくれようです。

よろしくお願いします。と頭を下げたら、持ってた鞭で後頭部をペンペンされました。

いえ、一応挨拶は基本かと。すみません。金輪際、二度と頭は下げませんっ。

黒豹ではなくて普通の方、金の毛に黒斑の豹なんですね。

顔や体のラインは人間で、豹の耳と尻尾にが生えているとコスプレっぽい。

あ、背骨のラインにも毛が生えてるんですね。

しかし、ボンツキュッボンツな体してるなあ。

肉感的な姐さんだ。

ロイヤルブルーのドレスは正面からだと首から足首まできつちりと覆っていてお堅そうなのに、背骨を覆う毛皮はスリットからチラチラしてて何だか色っぽくみえる。

こっちの世界はオーナー兄弟みたいに体が動物なんて人もいるから、露出度の高い服よりもきつちりと服を着ている方がそそられるらしいんだよね。

チラリズムか？

オーナー兄なんてジャケットは着ているけど、人間なら真まっ裸にジャケットだもんね。

下半身丸出し。露出狂もいいとこだ。

駄犬共がくれた服も、アレ何て言うんだっけ……ラバーでできた全身タイツ。貰ったのは皮製だったけど。

どんな罰ゲームだよ。嫌な思い出だ。

ジロジロと見るな？ あ、すみ……いえ、お姐様の美しさに魅入ってしまいました。これは合格ですか。

本日は、心構えを教えてくれるそうです。

きゃっ等を下僕と思え。奴隷として扱え。ええ、よく言いますよね。

そうではない？

主の姿をその目に映すだけで僥倖と思えるよう躡ける、ですか？
自分を知っているので僥倖とかそんな自惚れ……あ、鞭怖いですっ！ 僥倖と思え！ これですね！

仕えさせてやっているのだから感謝の気持ちを忘れさせるなですか……はあ。

はいっ！ 感謝しやがれですねっ！

……溜息つかれた。

先に奴隷の心構えから教えてくれるそうです。

奴隷は主人に仕えることを喜びとし、仕えるのではなく仕えさせて戴いてるという気持ちでなければならぬと。

ふむふむ。

使って戴けることに感謝をしなければいけないんですか。

奴隷も大変……ひいっ！ 当然ですよねっ！

いついかなる時でも主人が呼べば駆けつけられるようにすべき……

……ここ娼館というか相手お客さ……っ！ あの駄犬を呼びつけてやりますともっ！

鞭で床叩くの止めてもらえないだろうか。

きついタイプの美人だから鞭持つてるだけでも迫力満点なのに。

はいっ！ 上の空だなんてとんでもありませんっ！ 一言一句聞き漏らすことなく肝に銘じております！

奴隷は主人の命令には絶対服従で、無理難題だろうと努力しなくてはいけないと。

主人へ微塵も負担をかけてはいけないし、不快にさせてもいけない。

もしや！ 全身タイツはお仕置きへのプレリユードだったのかっ？！

えー…… 奴隷は主人の所有物なので、主人の許しもなく勝手に体へ傷を作ってはいけない。

まあ、この辺なら多分大丈夫かな。

奴隷は何事も求めてはならず、主人が与えるものはどんなことであつても感謝しなくてはいけない。

…… なんか、色々と自分を勘違いしちゃいそうなんだけど。というか痛いことをするだけじゃないのね。

えーつと、つまり…… 奴隷に対しては天上天下唯我独尊で傍若無人であれ。

こういうことでいいのかしら。

頷いてくれたから良いみたい。

しかし、何で私が喋るたんびに可哀想な子を見る目で見るんだろうか。

心構えよりも先に言葉をどうにかしないとですか。

そんなに訛ってるのかな。

え？ アホな子みたい？

えっ？！

17・失敗は成功のもと

よく言うよね。

失敗は成功のもと　って。

あれから半年——女豹姐さんの研修を受けて半年、若しくは無職になって半年というべきか。いや、職にはついているから無給になって半年が経過したが正しいか。

どちらにせよ、半年が経ってるのよ。半年といっても三六五日の半分じゃないんだよね。

あつちは一日二十四時間三六五日を十二ヶ月に分けられてたけど、こつちは一日三〇時間で三十日が十五ヶ月で一年四五〇日らしいのよね。多分。

日本にいたら今頃三〇はとくに過ぎてんだろうけど、こつちの歳に換算しなおすと今何歳になるんだろ……永遠の十八歳くらいかな。

一人でボケてツツコミされない虚しさにも随分と慣れたもんよねえ。

そんなことはどうでもよくて、給料ないまま半年も経ったからそろそろ貯金残高が心もとない。

出不精だから買い物はそうでもないんだけど、何気にじわじわと貯金を切り崩されて残り千円切りましたよ。やばい。

本気でやばい。

女豹姐さんからは心構えの教育から始まり、アイテムの扱いやら大道具の扱いやら、獣相ごとでの急所の違いとか、加減の度合いとか、それはそれは微に入り細に入りと教えて頂きました。

そんな所を叩いたり蹴ったりしたら使い物にならなくなるんじゃないかって所は特に念入りに教えて頂きましたよねえ……ふふ。

女豹姐さんの下僕を借りて練習したんだけど、へっぴり腰で叩い

たりするから何度怒られたことが。

特別に痛いのが大好きな下僕さんだったから、変にとんでもないところに当たったりしたときはのた打ち回って悦んでたけど。

動物タイプのお客さんだと、皮膚が硬いとか柔らかいとか種類も多いし、お仕置きなんだかご褒美なんだかしらないけど、鳥とりもち糞みたいな液体を貼り付けて乾いたら一氣に毛を引っこ抜くという手順とか、やって良い場所悪い場所なんかも教わりましたよ。

サービス講習にマナー講習もクリアして、技術面では合格点をやっとももらえた。

言葉遣いと発音が綺麗なイグアナ姐さんからは共通語を教わり、且つ女豹姐さんからは主人として相応しい言葉遣いを叩き込まれたし。

イグアナ姐さんは少し虹彩が縦長気味で、頬骨の辺りに薄っすらと黄色い鱗が浮いているクールビューティーなんだよね。

そんな二人から一応の合格点は貰えたし何とか形にもなってきたってことで試しにお客さんと引き合わされたまではよかった。

初顔合わせでの挨拶のときに、足を突き出して『おにやめ!』と噛んでしまったあの恥ずかしさと気まずさは一生忘れないと思うわ。ナンなの『おにやめ』って……自分でも流石にないわあって思ってたよ。

お客さんには『私のご主人様は噛んだりしませんっ』と泣きながら怒られるし女豹姐さんにも散々怒られた。

理想とする主人像を崩しちゃってごめんなさいですよ。

ちよっと噛んじやっただけじゃん。と言いつてできればこんな苦労はしていない。

LとRの発音がちつとも正せない典型的な日本人そのもので、一年前に比べればかなり上達はしたんだけどまだまだなんだよね。

でも、この半年で日常会話には困らなくなってきた。

お金絡むと真剣さって違ってくるんだなってつくづく思うわ。

女豹姐さんからの哀れみの眼差しも最近では見なくなったのが嬉

しい。

あと、北と南と西の訛りも区別できるようになってきたし、クアドリリンガルにランクアップか！ と一人悦に入ってる。

とはいえ、仕事となるとまだまだ駄目だし。

いや、でも流石に噛んじやった件では反省したけどね。

イグアナ姐さんに言葉を教えてもらいながら私もそれなりに考えましたよ。

そう。喋るから駄目なんだと。

喋んなければ良いんじゃない！

私、主人だし！ 主人からの命令を待つてるとかって有り得ないし！ 主人の気持ちを察してこそその奴隷じゃない？

私が口を開く前に行動しろ！

これだ！！

ちよつと、今日の私ったら冴えてない？

女豹姐さんに相談だ！

怒られた。

18・稼ぐに追い抜く貧乏神

よく言うよね。

稼ぐに追い抜く貧乏神って。

始終無言作戦は女豹姐さんによって露となり消えた。

べ、別に最初っから最後まで無言で通るなんて思ってたから！

イグアナ姐さんが間に入ってくれて、面白そうだから試してみたら？ の流れになったんだけど、イグアナ姐さん娯楽が少ないからって人を娯楽として楽しむのはどうかと思うのです。

そんな訳でイグアナ姐さんの紹介で改めてお客さんにご対面となり、何とかやり通してみせましたよ！

横着、面倒の極みを見せてやったさ！

会話は全部単語だったけどね。

『ん』『それ』『違う』『やり直し』『帰れ』これの繰り返しでいけたよ！

もう少しまとめた会話もしたけど、大体単語語りとジェスチャーでいけてしまった。

喋るときもゆっくりと話したから今度は噛まなかったし。

楽勝じゃーんとか思ったりもしたけど、そこはあまり調子に乗らないようにしておかないとね。

期待の籠った目には溜息をついたりとか、やり遂げた瞬間に合わせてわざと見逃して『やり直し』とか、失敗しちゃったら『帰れ』とかね。

『帰れ』って言った時のあの涙目にはちょっと顔が緩みそうになっちゃったけど……癖にならないように気をつけねば。

駄目出しオンパレードで終わるわけにもいかないので、ご褒美をあげたあとにちょうど時間となってお見送り。

いい流れだった。いい仕事をしたよ私。

お客さんもそこそこ満足してくれたのか、チップ十万くれた！

初仕事、前回噛んだのはカウントしないことにして、今回は初仕事ということもあったし、本来のチップよりかは少なめな方なんだけど、期待しているからと労いの言葉ももらえたし。

悪くない初回だったんじゃないかな？

オーナーからは百万ではなく五十万ほどもらった。

もうちょつと実施研修をしてから通常の特別手当が出るみたい。

取り合えず、残金八百円に五十万が増えて嬉しい。

それから、通常に仕事していたときは毎日数人のお客さんを相手にしていた分、十日に一回とかの間隔に減ったけど手取りは大きいから寧ろチップも入れて余裕でプラス。

手探りで空気というか流れを読みながらというのも感覚的に掴めてきているような気がするし。

このオーナー兄が経営する娼館は上級ってランク付けされているせいもあって、オーナー弟の店よりも裕福層の顧客が多いんだよね。その裕福層の中でも更に裕福な上の人達……知識階級の人達が、専門なお遊びを楽しんでるらしい。

お客さんの職業なんて興味ないから聞いたことないけど、それなりに地位の高い人はその分ストレスが溜まりやすいのかなあと思ってみる今日この頃。

不思議と裏つばい人とか荒くれた仕事をしている人は普通に遊んでるんだよね。

お硬い仕事とか、地位とか責任のあるポジションの人は、そういう傾向にあるよ。なんて噂はデマかもしれないけど日本でだって聞いたことがあるし、世界変われどその辺は変わらないのかなあってね。

どのお客さんも大事なんだけど、特に店にとっては特に大事なお客さんの一人が私のお馴染みさんになってくれそうなので気合を入れておりますよ。

オーナーからお見合いを勧める感じでこの人どうかしらって紹介されたんだけど、何となくいい感じ？

客と娼婦でありながら、主人と下僕の関係というのはかなりデリケートで、普通のお客さんよりも信頼関係を密接に結ばないといけないと私は思ってる。

実施研修のときは女豹姉さんの下僕や、イグアナ姐さんが間に入ってくれたお客さんだったからあくまでも練習の域だし、関係を築く段階はすっ飛ばすことができたけど、お馴染みさんになってくれるお客さんはその手間をすっ飛ばすわけにはいかないもんね。

なので、今はそのお客さんとデートを重ねておりますよ。

お客さんは店に私を連れ出す費用を払うけど、一回のデートで店からもらえる給料は一万つてとこかな。

デート費用はお客さん持ちだし一切支払いはしなくていい上に、お店からも給料をもらえるのは嬉しいけれど、プライベートの衣装代は自腹なので結構ぎりぎりなのよね。

大量生産型の工場なんてあるわけないから衣服は全部オーダーメイドで、庶民は自分で縫ったり古着屋で買ったり、ご近所で裁縫の得意な人に気持ちばかりだけどってお礼を渡してアレンジしてもらったり、作ってもらったりが普通みたい。

仕立て屋から服を一式買うとなると最低でも五万くらいは掛かってちゃう。

日本だったらオーダーメイドで五万は安い方だけど、以前の給料を思えば一年に一万の貯金がやつとつてとこだったし、とてもじゃないけど簡単に買えるようなモンじゃないのよね。

デートのたんびに同じ服だなんて、お客さんの主人像を壊すわけにもいかないし、何となく妙なプライドというか、一応それっぽくは見てもらいたいと思ったりもするし。

なので、折角五十万の給料を貰っても衣装代で横へと流れていく現状はどうにかしたい。

減りはしないが増えもしない貯金はかなりストレスだ。

.....気が利かないわねって言ったらプレゼントしてくれない
だろうか。

19・巫山の夢

よく言うよね。

巫山の夢って。

この店に来てから二年経ちましたよ。

良いんだか悪いんだか、仕事にも慣れてきたし馴染みとなつてくれた固定客も二人ついてくれたし、月日が経つのは本当に早いよねえ。

寝苦しい夜に呼びつけて一晩扇いでもらって更に百万貰っちゃったりとか、ほんとすみませーんって感じ。

デートするときも移動は馬車だし、道は当然石畳とかでデコボコしてるもんでお尻が痛くなるから、馬車の中で四つん這いになった背中へ乗せてもらうとかね。

ほんと、すみませーん。

以前に比べたら店の外へは出るようになったよなあ。

まあ、お客さんとデートするときくらいなんだけどね。

相変らず出不精だから、服とかの装飾品はもう直接お店に来てもらって買い物してるし。

プレゼントとかも貰えるようになったから、貯金が少しずつ増えているのが最近の楽しみ。

タンス貯金なんだけどね。銀行作ってくれないかな。無理だろうけど。

衣服もかなり溜まってきたし、順調にお金も入ってくるようになったんで、貰う給料から少しずつ借金も天引きしてもらってるから、自由の身になるのが少しは早くなるかな。

西のお店での仕事にも慣れてはきて、南のお店に戻る日はいつなのだろうかとぼんやり思ってたら戻れないことが確定したみたい。南のお店から一緒にやってきた姐さん妹分達は、私も合わせてこ

れからもこのお店に居つくことが決定したし、オーナー弟もお店畳んで本格的にオーナー兄と共同経営になったって話だし。

共同経営という割にはオーナー弟は出入り激しいので、新しいお店を作る物件を探しているのかも。

南の国、お店があった街は軍港も兼ねてたから特に激しかったみたい。

王都は街から離れた場所にあるんだけど、そっちはそっちで大変みたいだしね。

先日、中央の国が間に立って和平条約？　でいいのかな。取り合えず戦争は終結したらしい。

そうなると思うのが駄犬を始めとしたお馴染みさん達で、特権階級なんだか上流階級なんだかは分からないけど、西のお店に移動する前から顔を見せなくなったから王都に行ってるのか戦争の後片付けで今は忙しいのかもしれない。

前線に出て戦ったりはしてないと思うんだけど、みんな無事だと良いなあ。

なんて思っていたら、新たにお馴染みとなってくれるお客さんが来たって連絡がきましたよ。

最近は新規のお客さんと会ってないし、デートを重ねているお客さんもないんだけどなあ。

いきなり馴染みになってくれるってどんなんだと思いつながら部屋に行ってみれば締まりのない顔をした駄犬がいるんですけど。

心配していた私の健気を返せ。

そのだらしない顔はなんだ。

というか、何でアイパッチしてんだ。

カッコイイだと？　ふざけるな、ボケナス。

ちよつと何それ、何で怪我なんてしてんのよ。

左目見えなくなってるの？　え、見える？　じゃあ、何でアイパッチしてんのよ。

カッコイイ？　黙れ、馬鹿っ。

傷が見苦しいって……まあ、額から頬にかけてバツサリやられちゃってるねえ。

目は平気だったんだ？ ふうん……痕は残っちゃったけど、もう傷は塞がってるんだね。

って、何よ。何で人の顔を見てニヤけてるわけ？

安心とかそんなんじゃない……っ……だ……誰の許しを得て勝手に傷をつけてきたーっ！！

そこへ直れ駄犬があっ！ 貴様が誰の物なのかしっかり躡けてやるわーっ！

ちょ……ちょっとだけ燃えてしまった。
悔しいっ。

20・いつも月夜に米の飯

よく言うよね。

いつも月夜に米の飯って。

南と東の国での戦争も一先ずは終息して、南の店で馴染みになってくれてたお客さんがそれぞれ顔を見せにきてくれた。

駄犬は前線に出てたんで傷をこさえてきちゃったけど、駄豚に駄山羊に駄蝙蝠もみんな無事でしたよ。良かった、良かった。

もう一人お仲間を紹介してもらえる話は、慌しさで流れて結局四人のままだったのよね。

南の国からだと距離があるんで頻繁に通えないだろうし、これからは疎遠になっちゃうのかな。

休暇を取ってまた来るとは言ってたけど、どうなんだろ。

まあ、心配事が一つ減ったしね、平和平凡退屈な日々万歳ですよ。南の国でのお馴染みさんが減った分、こちらでの馴染みさんが三人になって借金も着々と減っていつているし。

三人ならあと二三年つてところで借金がなくなるはずなんだよね。

もう一人くらい増えてくれたら一年か二年弱で借金はなくなると予想。

あまり過ぎた期待はしないようにと思っているんだけど、オーナー兄からこのあいだ紹介されたお客さんがかなり羽振りが良い。

他の国から来て暫く滞在しているらしく、短い期間でデートを重ねてるんだよね。

そんなに急がなくても思いつつ、小遣いを稼げるので私としては嬉しいんだけど、何でそんなに通ってくれるんだろっか。

私を気に入ってくれたからなんだろうけど。

普通というか、馴染みになってくれたお客さんは一〜二週間に一

回という間隔だったのに、今デートしているお客さんは一週間に二
〜三回なのよね。

私、そんなに喋らないし、馬車が嫌いだから遠出はしたがない
のに、何が楽しいんだろう。

いつもニコニコしているから満足はしてもらえてるんだろうと思
うけど。

カメの獣相をしたお客さんなんだけど、オサガメのように巨体な
んだよね。

熊の獣相しているオーナー兄弟も大きいんだけど、負けず劣らず
大きい。

鼻が低くて上唇が薄いというか、鼻の下が長いというか、目も真
っ黒でのっぺりとしていかにも亀って顔。

亀っぽくて老けた顔をしているけど、実際幾つなんだろう。

こっちの人って獣相によって寿命が違ってくるから、本当によく
分からないのよねえ。

『人間』の私が長生きして百歳くらいだとすると、オカメちゃん
みたいな小動物や小鳥系の獣相は五〜六十歳くらいだし、大型の肉
食系や猛禽系は百歳を超えるみたいだし、亀顔のお客さんはもつと
長寿なんだとか。

オカメちゃんは短命だけど、こっちの一年って長いから日本とい
うか地球なら普通になるのかな。

計算面倒だからしてないけど。

どっちにしても亀さんは長生きするタイプで私よりも寿命が長い
ってことは確かだね。うん。

亀さんとのデートは店の近所にある公園まで行ってぼんやり日向
ぼっこが定番。

帰りにオシャレなカフェなんかに着っちゃって早い時間ならラン
チをしたり、おやつタイムならお茶をしたり、時間が遅かったら高
級レストランっぽい店でディナーをご馳走になったりとか。

これで日給一万プラスチップなんだから楽だわ。

楽なんだけど、亀さんって一体何者なんだろうか。

馴染みになつてくれたあとの二人もなんだけど、ボディガードもどきがいつもついてくるのよね。

見るからに腕っぷしが強そうな護衛さんが、一定の距離を保ちなから後からついてくるのが何気に気になるんだけど。

外を出歩かないときは部屋の外で待機しているみたいだし。

上流娼館だから？ ボディガード付きって、どんだけ金持ちなんだろう。

でも、私が貰う給料が一回百万相当なわけだし、お客さんが払う額はもつとなんだよね。

一回に幾ら支払ってるのか詳しく聞いてないけど、軽く二百万以上は払ってるよね？

プレゼントも結構良い物っぽいし。

洋服なんかも麻とか棉じゃなくて絹っぽい手触りだから、かなりいい額なんだとは思ってるけど。

うゝん、謎だ。

このあいだ亀さんから貰った煙管はやけに意匠の凝ったものだったしなあ。

一緒に葉も貰ったけどこれもかなりお高そうだった。

煙草みたいに葉を乾燥させているのは安いんだけど、生葉は鮮度がよいほど高いんだよね。

ブレスケア感覚だから、生葉を噛むタイプもあるし。

火で燻すと口の中に香りが残る葉っぱは数口吸えば済むから煙管で丁度いいのかも。

ミントタイプや花の香りシリーズとか色々あるけど私はバニラタイプが好きだなあ。

猫系の姐さん達が集まると水煙草みたいな道具でマタタビでも吸ってるのか、ゴロンゴロンしているのは可愛いけどね。

暇なときは何となく煙管に手を伸ばしていたけど、最近はもっぱら鞭を持ってブンブン振り回してることが多くなった気がする。

.....。

あまり煙管は使わなくなったのにプレゼントしてくれたってことは、灰吹きとして利用してくださいというアプローチなんだろうか。私、かなり毒されてきてる？

21・浮世は回る水車

よく言うよね。

浮世は回る水車って。

亀さんがお馴染みさんになってくれて、更に亀さんから紹介された体は人間なのに全身鱗だらけのワニさんも先日お馴染みさんになっ
てくれました。

これで、お馴染みさんが四人プラス遠距離お馴染みさんが四人つ
てところだね。

遠距離お馴染みさん組みが意外や意外、頑張って通ってくれてる
のは嬉しいところ。

亀御大もお泊まりコースとそれに輪をかけてデートも頻繁にして
くれるし、ワニさんもお泊まり回数が多いな。

遠距離組はお国柄なのかちょっとひょうきんだったりもするけど、
こっちでお馴染みさんになってくれた四人はどちらかといえば大人
しいタイプなんだよね。

最初にお馴染みさんになってくれた鼻の付け根に黒い瘤がある白
鳥さんも、二番手の立派な眉におちよぼ口の梟さんも、新しいワニ
さんも見た目は頭脳派というより武力派でしょ。ってタイプなのに、
温和で実に物静かだから私としては無理してテンション上げる必要
もなくて嬉しい。

亀御大は見た目の通り温和そのものだし、パッションの足りない
私には実に丁度良い。

お金持ちのお馴染みさんと遠距離組が根性で通ってくれているお
かげで、借金も残すところ一年を切りましたよ。

半年ちよいつてところかな。

ゴールが見えてくると色々と夢も出てくるもんだよね。

今のお馴染みさんがいれば普通のお客さんは相手にしなくていい

し、適度に通ってもらえるならお店としても収入があるから居候しても問題ないと思うんだけど、この辺りもそろそろ相談しておかないとだよな。

まあ、店を出て一人でやっていくという気は更々ないし。出て行けと言われたらどうしよう。

この八年で身に付いたといったら言葉くらいか。

料理もできないし、一生する気もないし、裁縫は今からじゃ無理だし、できると思ったら掃除くらい？

仕事が細分化されてるわけじゃないから、掃除だけで雇ってもらえるとも思えないしなあ。

何よりも治安だよな。

折角自由になったのに、また攫われて一から借金生活を繰り返すのなんてイヤだし。

私がこの店に来たあともぼちぼちと妹分がやってきたりして、今では真ん中よりちょっと上の中堅どころというポジションも捨てがたいし。

店の姐さん達とも上手くやってるからここで居候させてもらうのが一番都合良いんだよなあ。

なんてつらつら考えていたら、スカウトがきました。

ヘッドハンティングか？

東にある大国のお店にいらっしゃいませんかだって。

今の環境も悪くないけど、南の国から出る事になったのって東の国との戦争だったんだから行きたくないよ。

と思つたら、東の海に面して大中小と三つの国あつて、一番小さい国が南の国とやりあつたんであつて、お誘い受けてる国はまた別なんだとか。

大陸の中でも三本に入る大国だとかで、他の二国と均衡を競り合つてるとか、治安はどこよりも良いとか。

いや、別でも大国でもまたあの距離以上を移動しなくちゃいけないと思うと面倒だしなあ。

飛行機とか電車とか車で移動ならいざしらず、馬車だもんなあ。半年かそこらで借金も返せるんだし、今更お店変えるのもねえ。

長距離の移動ってロクな目に合わないから外へ出たくないし。気が乗らないというより行きたくないんだけど。

普段はイエスマンな私が珍しく素直に頷かないもんで、オーナー兄弟が必死に押んできた。

頷いてくれれば今直ぐにでも借金チャラにしてくれるとか、移動する馬車も最高品質でお迎えにきてくれるとか、護衛も前回の更に倍の倍で絶対に安全だとか色々と言われるし何か裏でもあるのか？移動だけ我慢すれば絶対お前にとって良い話だから、と大変熱く説き伏せられた。

オーナー兄弟にとって、私は東の国へ行った方が色々都合が良いらしい。

のけ者ってわけではなく、親身になってそこまで口説かれてしまうと何だか嫌だと強情も張りつらいじゃないのよ。

お馴染みさん達も本当は外国の人だから、東に行った方が都合良いいんだって。

まあ、遠距離組みは南だし、西に来るよりも東の方が移動は楽だろうから損もないので結局は頷いたただけだね。

お菓子を買に行かなければ！

22・案ずるより産むがやすし

よく言うよね。

案ずるより産むがやすしって。

引越しの準備やらお店の姐さんや妹達へ配るお菓子と、世話になった女豹姐さんとイグアナ姐さんにはパリコレで見たような衣装のドレスを作らせて贈ってみた。

貯金半分に減ったけど気にしないっ。

みんなとお別れも済ませて引越す当日、やってきましたよ黒塗りの馬車が。

ピッカピカにテカってるボディに金色の装飾品がついてる馬車ですよ。

真っ白な馬もどきは四頭並んでどこの王族がおいになるのですかって感じで焦った。

私の乗る馬車の回りには護衛が六人、荷物を運ぶ馬車にも六人、更に道中の食材やら備品やらの馬車が一両、別途ついてくる護衛もいて総勢三十名での大移動。

お陰で無事にここまでやってこれたけどね。

お尻と腰へのダメージは回避できなかったけどね。

で、やってきました新天地。

凄いわー。凄いわよー。

ここまで来るあいだ街を眺めてきたけれどオーナー兄弟が言っていた通り、確かに西の国よりも賑やかで活気溢れているって感じだった。

そんな賑やかな繁華街の裏手にある閑静な住宅街の一画に到着したんだけど、日本なら路線価はいくらになるんだろつかという高級住宅街とみた。

こっちは道路に値段ついてるのか知らないけど。

塀で囲まれた敷地の広さに比べて建物が小さいというか庭をかなり広く作ってるんだね。

塀の内と外で定期的に不審者が入らないように巡回もしているようだし、庭にもだし、建物の周りにもいてかなりセキュリティは強固な感じ。

寧ろ強固過ぎな気もするけど。

娼館にいる『商品』は他の店でも高く売れるというんで、たまに攫われたりなんてことがあるから護衛がいたりするわけなんだけど、これはちよつと多過ぎなんじゃないのかなあ。

高級娼館ともなればこれが普通なのかしら。

上級の娼館と言われてた前のお店とはかなり違うんですけど。

庭の取り方もそうだし、柱一本なんか凝った模様が彫ってあったりとか、手抜きของなさ、お金の掛け方が段違い。

うーん、凄い。

建物の中も豪華絢爛なんだよね。

金銀ギラギラという成金的な豪華さじゃなくて、モダンな雰囲気なのに匠の技があちらこちら随所満遍なくって感じが凄い。

鋳の一つ一つにまで模様が入ってるんですけど。

ここのオーナーどんだけ金持ちなんだ。

姐さん達が居たから挨拶に行ったら、何と姐さん達も数日前に着したばかりなんだとか。

新規オープンなの？

北の売春宿でだって三十人以上は居たのに、私を入れて十人だから店としては大きくないんだけどこれでやっていけるのかしら。

ここまで来て店が潰れて追い出されるのは嫌なんだけど。

私達以外に住み込みで働く人達もいるけど、肉食系っぽい感じのわりに線が細い男性ばかりだし。

食事や私達の部屋はもちろん客室の掃除に洗濯とか雑用を一手に引き受けてくれてるんだよね。

多分、護衛も兼ねているんだろうけれど。

店が開くまではまだ数日あるからということとで運び込んだ荷物を整理したり、なぜか肖像画も描いてもらい、建物の中や庭なんかを散策していたりする日々。

肖像画なんて描いてどうすんのかと思ったら、エントランスホールに飾るそうですよ。

ほっほっほっ。

……私、どう鼻屑目に見ても美人じゃないんだよねえ。

自己採点ではそう悲観するほど悪くはないと思いたいんだけど、娼館にいる姐さん妹分達って『商品』なだけあってタイプは様々だけど美人揃いだし。

私の取り得といったら珍しい『人間』っただけだしなあ。

この館にいる姐さん達はまた格別に美人と可愛い人ばかりだし、そんな中で自分の絵も飾られるとかどんな罰ゲームなのよと。

マスカレードみたいなマスクでもしたら誤魔化せないかな。無理か。

それともこれは、その手のお店によく飾られている顔写真の変わりか？

指名がなかったら切ないんですがっ！

あ、お馴染みさんがいるから大丈夫か。

借金もなくなった今、お馴染みさんが適度に通ってくれば何とか生活していける！

貯金も半分に減ったけどまだ余裕あるしね。

新しいオーナーともまだ会ってないし。

家賃の支払いが気になって仕方ありません。

23・陶朱猗頓の富

よく言うよね。

とっしゅいとんのとみ

陶朱猗頓の富って。

一週間掛けて全員の肖像画が描き上がりましたよ。

もう少し時間が掛かるものだと思ってたんだけど、オープン日の都合で急いで仕上げたのかなと思いつつ、出来上がったアテクシ像は本人の二割増しで美人になってました。

ありがとう、画家さん！

勿論、他の姐さん達も二割三割増しなので平均値は変わりませんけどね！

門を潜ると庭を眺めるように敷地を一周してから正面玄関の車寄せならぬ馬車寄せに到着し、丸いエントランスホールへ入ってくると放射線状に繋がっている小さな——といっても十畳くらいあるんだけど——待合室に通されるって流れになってるのよね。

待合室から上や下に行ける階段があつて、それぞれ接客する部屋へと繋がっているんだけど、このスペースの無駄遣い振りが豪華だわ。

私達が接客用に与えられた部屋は待合室も入れると四部屋。

各部屋を見せてもらったら色というかテーマ？ が全部違ってんだよね。

私の部屋は茶系色で統一されてて、焦げ茶色の木材を使ったフロアリングに、柱も家具も同系色で壁はベージュだった。

淡いピンクのお花畑、じゃなくてレースたつぷりな乙女部屋を使うのは兎の獣相をした姐さんで、以前世話になっていた兎姐さんとはまた異なる可愛い人なのよ。

顔にある獣相は目だけでくりっくりの真っ黒い目が大きくて可愛い。

カチューシャをはめたみたいに小さなオレンジの耳がピヨツと頭について尻尾もある。

首は天然毛皮の襟巻きがついていて、それはそれは儂げな可愛らしい方なのに、やることはかなりハードだそう。

嬉々として棘々したお道具のあれこれを見せてもらいました。

駄犬に貰った鞭を見て、兎姐さんは何本も枝分かれしている鞭を譲ってくれそうになりましたが、謹んで辞退いたしましたよ。

だって、先に棘ついてるのなんて恐ろしくて使えませんって。

時間も余っていたこともあり、なぜかその場で棘々鞭のレッスン。いえ、多分実践する機会はないと思いますが、筋は良いと誉められました。

女豹姐さんのお陰です。

他にも淡い水色や薄緑、アイボリーといった具合で、どの部屋も全体的にパステル風な色調で整えられていてお上品な感じだったし。聞いて回って知ったんだけど、十人のうち兎姐さんと私は同じ専門職で、ライオン姐さんと白熊姐さんは私とは逆の専門職、残り六人は一見さんいちげんとかノーマルさんを相手にするらしい。

うん。一見さん。

店ではなく館と言うようにって注意されましたが、この館は会員制なのだそうですよ。

なので、専門職の姐さん達もお馴染みさん、ではなくパトロンが数人いらっしやるんだとか。

この館のオーナーは専門職組み四人のパトロンさん達で、それぞれが出資しあって作ったんだって。

館オープンに伴って雇われた六人の姐さん達は、接待用とか付き合いの都合上で招待したお客さんのお相手をするという仕組みらしい。だから、一見さんのお相手もするし、専門的な方も軽くやりますよって感じなんだとか。オールマイティにこなすわけだね。

会員の招待がなければこの館には入れないし、招待される側もそれなりの人格が求められるんだって。

加減もできないただの加虐趣味とか乱暴者が出入りされても困るしね。

違法ってわけではないんだけど、金持ちが密かな趣味のために道楽で作った秘密クラブって感じなのかなあ。

オーナー達が認めた者しか入れない、招待しないということで、なぜかオープン前にもかかわらず予約で一杯だそうです。

オーナー達どれだけステータス高いんだろう。

オーナー達の顔はまだ見てないんだけど、館を取り纏めるマネージャーさんが昨日挨拶にはきた。

ナイスミドルな狐のおじ様でした。

上背のある二足歩行の狐さんがスリーピースを着ているのはなかなか素敵だと思った。

24・蚤の夫婦

よく言うよね。

蚤の夫婦って。

館がオープンしましたよ。

オープン初日の今日、お客さん達は白熊姐さんのパトロンさんが招待したらしい。

挨拶だけ交わしたんだけど、私よりも背が低いビーバーさんだった。

ビーバーなんて初めて間近で見るから撫でたかったのを必死で我慢しましたよ。

見た目ビーバーで服を着ているとか、どんなヌイグルミなのかと横幅のある大きな尻尾はズボンからどうやって出しているのか、上着を捲ってみたい衝動に駆られて大変だったよ。

足が短いからズボンも短いし、無理して履かなくてもいいんじゃないかとは思ったけど、一応ステータスとか拘りがあるんだろうね。ビーバーさんは北の国の財界では知る人ぞ知る有力者らしい。ちっこいのに。ちっこいのは関係ないけど。可愛いのに。可愛いのは関係ないけど。小さな手でシェイクハンドが可愛かった。

白熊姐さんのお肌に残った歯型はアナタでしたかと納得しちゃった。

ライオン姐さんも背の高いモデル体型で、上唇の斜め上にあるほくろが色気っぽくて蠱惑的なタイプ。

パツと見では獣相がない『人間』のようだけど、牙と爪が伸び縮み自由なのだとか。

咄嗟の時は要注意。キャッ！とか言った瞬間に爪が飛び出るからね。

見た目はプライドが高そうで女王様って感じなのに、パトロンさ

んへ傳いちゃうんだよなあ。^{かしず}

女王様なのは見た目だけで、話してみるととっても可愛い人。
フリルが大好きなのに、つい興奮して引き裂いちゃうのが悩みだ
って言ってた。

ライオン姐さんはお部屋が淡い緑なので、兎姐さんの部屋を羨ま
しがっていたけど、兎姐さんは素で意地悪な人だから見せびらかし
て楽しんでる様子なのよねえ。困った人だ。

同じく傳いちゃう白熊姐さんも背が高いけどライオン姐さんに比
べたら肉感的なタイプで、背の高さを気にしてるのか背の低いビー
バー旦那の隣で小さくなろうと頑張ってるところが可愛い。

白熊姐さんの獣相は尻尾だけで見た目は『人間』なんだけど力が
白熊さんなのよね。

悪戯心でちよつと尻尾を弄ったら、いやぁんと悩ましい声を上げ
ながらテーブルを叩き割っていたのでマネージャーには土下座もの
で謝っておいた。

肉食系は下手にちよつかいけるもんじゃないね。うん。

でも、性格はやっぱり可愛いんだよねえ。とってもはにかみやで
シャイな人。

兎姐さんがえげつないだけにとっても可愛い。和む。

兎姐さんも根は良い人なんだが、根っこにたどり着くまでが大変
というね。

専門組の私達は今回のパーティには関係ないんで、私とライオン
姐さんは私室でのんびりと寛ぎ中。

私達の私室は三階にあつてお客さんは当然立ち入り禁止だし、パ
トロンさんも私達が招待しなければ上がってこれないのよね。

私達は無理矢理連れてこられたわけでもないので逃げ出す心配は
ないけれど、二人一組三チームの六人体制で私達それぞれ警護にあ
たっている。お金どんだけかかってんだろ。

移動するときは必ず二人がついてくるし、接客中は接客室にある
控え室で待機するしね。

男手が欲しいときは手伝ってくれるし、万が一のときには雇い主のパトロンさんよりも私達を優先してくれるという大変頼もしい人達だ。

護衛もいるしお客さんも勝手に上の階へくるような不調法ではなさそうだし気楽なもんです。

白熊姐さんのパトロンさんに招待されたお客さんは六人で、生バンドも入って一階は賑わってるみたい。

窓を開けていると生演奏が上にまで聞こえてくる。

そんな優雅な夕暮れにライオン姐さんの咆哮が時折響いてくるのよね。

多分レース編みに挑戦して失敗してんだろうなあ。

兔姐さんは飛び入りでパーティに参加しているし。

昨日、兔姐さんにパトロンの数を聞かれてんで答えたら何か闘志を燃やされましたよ？

見かけに寄らず多頭使いとか、やるじゃないの。って言われまして。えへっ。

兔姐さんだつて五人いるのに、今日のパーティで新たに誼よしみを結ぶんだって張り切ってた。元気な人だ。

打たれ強い下僕が欲しいらしい。

ところで、多頭使いつて何？

25・言いたい事は明日言え

よく言うよね。

言いたい事は明日言えって。

白熊姐さんを皮切りに、ライオン姐さん、兎姐さんのパトロンさん達が順にやってきて接待をしていたけれど、私にはそういう接待パーティーの機会がないのよね。

姐さん達のパトロンさん達は定期的に接待で利用してるのに。

まあ、楽だからいいけれど。

いいんだけど、兎姐さんはあれから新しい下僕が調達できないまままで、他の接待パーティーにもこまめに顔を出しているうちに、なぜか白熊姐さんとライオン姐さんのパトロンさん達と意気投合してんだよね。

そして、なぜか私に接待パーティーをしないのかとせつついてくる私がしてるんじゃないんで知らないですよ。

接客するわけでもなく一人寂しくしているかといえそういうわけでもなくて、マネージャーさんが日にちの調整をしてくれてるのが、被ることなくパトロンスが交代でやってくる。

楽だわ。凄い楽。

借金もないし、炊事洗濯掃除もしてもらって、しかも家賃はタダ姐さん達のパトロンさん達に乞われて接待しているお客さんへたまに挨拶をしたりはするけれどそれ以外の仕事は一切なし。

セキュリティーは万全だし、何この極楽。

上げるだけ上げて、後で思いつきり落とされたりしたらどうしょ。流石に立ち直れないと思うんだけど。

と自堕落に心配ごとなんてしながら過ごしていたら一年経ってるし。

パトロンスの理想的な主人であるために、一応体は引き締めては

いるけど気が緩むわあ。

前の店に居たときからやっていた勉強は暇潰しに続けているけど、護衛さんをお願いして護身術習うとかは無理だしなあ。

勉強といっても、語学と芸術と音楽に歴史だけだね。

花魁の教養が高かったように、こつちでもそれなりに学とか教養が求められるみたい。

それともこれもパトロンスの理想の一つなのかな？

覚えて損になるもんでもないからいいけど。

そろそろ亀さんが来るころかなあ。

お迎えの準備でもしますか。

準備するのは亀さんの方だけだね。

……………。

どこで間違えちゃったのかなあ、ほんとに。

ほんのちよつと駄洒落を思いついちゃっただけなのになあ。

亀をちよつと縛ってこれが本当の亀甲縛り……………なあんちゃつて。

って思いついちゃった私の馬鹿っ！　ばか、バカ、馬鹿っ！　なんちゃってじゃないでしょうがあつ。

いや、思いついたときは楽しいと思えたのよ。うん。その時はね。きつと慣れてるだろうからと思ってライオン姐さんに協力を仰ぎ、マネキンになつてもらつて練習したまでは問題はなかった。

いや、ライオン姐さんをお願いしたのが間違いの元か。

ネット画像で縛られた醤油メーカーの瓶を見たときに、うつかり知的好奇心を刺激されちゃってちよつとだけ試したことがあったんだよね。簡単だったし。

思い出しながらやっていたら、なぜか白熊姐さんと兎姐さんが覗きにきてて、ここはどうだあれはどうだと。

練習がいつの間にやら講義になっていた。

兎姐さんグイグイ引っ張ったりするから、ライオン姐さんはハアハアだし。

それを見ていた白熊姐さんは指を咥えながら羨ましそうに見てるし。

そんな目で私を見ないで欲しい。

なんて言えるわけもなく、兎姐さんの練習に白熊姐さんが相手をしてた。

まあ、ここまではギリギリ。ギリギリ、ガールズトークの延長とでも思おうじゃないか。

何でビーバー旦那とライオン姐さんのパトロンさんにまで教えなくちゃいけないわけ？

ライオン姐さんのパトロンさんはアリクイさんで、獣相が少ない人なんだよね。

尻尾と爪がごつくて舌が細長い。目は離れてるけど物凄い優しそうな顔立ちのくせに兎姐さんと同類なのかと思うと微妙だわ。

パトロンさんの後ろで期待の籠った熱い眼差しを送ってくる姐さん達を前にして、嫌ですなんて言えるわけないし。

仕方なく教えてあげましたよ。

何であの時私は醤油瓶を縛ることに情熱をかけたのかっ！ 悔やんでも悔やみきれないっ！

亀さんにサービスしちやおっかな。なんて思いつきは疾^とうに冷めちゃったし、そのまま無かったことにしようと思ったら誰が教えたんだが無言の圧力を掛けてくるし。

もう面倒になっちゃったし口頭で説明して自分でやらせてみたら一回で覚えやがるし。

今じゃ扉を開けると亀甲な亀がお待ちかねですよ。

何かやってらんない気分なんだけどっ！

26・蝦で鯛を釣る

よく言うよね。

蝦えびで鯛を釣るって。

私、作曲家デビューします！

パトロonzが雇ってくれたんだと思う家庭教師は四人。

それぞれ語学、歴史、芸術、音楽について教えてくれるのよね。

興味ある分野の先生がくると、接待職の姐さん達や専門職の姐さん達も顔を出して授業を受けたりしてて案外楽しかったり。

語学というか方言だね。

心もとないけど一応三カ国の方言は喋れるから今は東の国の方言を教わってる。

先生もついてくれてるし、私も漸く質問できるくらいには話せるようになったから、以前ほどは苦勞しなくて済んでるのは正直嬉しい。

歴史もね、知らなくて構わないけど、来るお客さんは有力者だったりするんで恥をかかないようにってことらしい。

芸術関係の授業だと審美眼を養ってるのかな。

模造品の簡単な鑑定方法なんかも教えてもらっててなかなか興味深いのよね。

歴史の授業よりかは楽しい。

音楽の授業も、女性の嗜たしなみとして教えてもらってんだけど、世界が変わっても楽器はそんなに変わるもんじゃないね。

楽器のデザインは少し違うけど見たことのある楽器はだいたいあって、一通りこなせるようになってだって。

授業には姐さん達もやってくるし、家庭教師の先生だけじゃ手が足りないから接待のときにきてくれるバンドさんも手伝ってくれてるから賑やかで楽しい。

バンドもオケみたいな大所帯じゃなくて、十五人だからビッグバンド程度になるのかなあ。

この間、時間が少し余ってたから何か演奏しましょうかって流れになったんだよね。

日本からほっぽり出されてそろそろ十年。

もう今更帰りたいといって泣きはしないけど、ちよつと郷愁に浸ってみるのも有りかなと思ってこんな感じの曲を弾いてとおねだりしてみたら何それ凄い状態。

え？ そお？ なんて調子に乗って思いつく曲を全部口ずさんでたり。

先生なんか必死にメモしてたけど楽譜に起こしてたのかな。

こっちの楽譜って五線譜じゃなくて、音に記号が振られてるんだよね。

まあ、慣れればどうってことないんだけど。

それから音楽の授業があるたんびに、他の曲は他の曲はとせつつかれて十年以上も前に流行った歌謡曲まで披露して聞かせてたんだけど、先日先生とバンドマスターがご挨拶にいらっしゃってお金をくれましたよ。

五十万くらい？ 曲の相場として高いんだか安いんだか分からない。

前の店で買った服数着は買える金額なんだけど、聞かせた曲を色々とアレンジして劇団へ売ったその一部らしいのよね。

一部。一部ってことは、もつと高く売れたってことよね。

一応、アレンジしていいかとか、どこぞに売っていいかと聞かれたんで適当に頷いてはいたんだけど随分前の話ですっかり忘れてた。いつの間にアレンジしたんだとか、いつの間に売りつけてたんだとか、こんな大金いきなり貰っちゃってウツハウ八とか舞い上がったから、合計幾らで売れたのか聞きそびれてしまったよ。

今更聞くのもちよつといやらしいしなあ。でも幾らで売れたかは気になるのよね。

まあ、今度聞けばいつか。

売った劇団は各地を旅するタイプじゃなく街でやってるタイプらしくて、評判良くて上演回数が増えればその回数分五十万入るんだってー！

他にも曲があれば教えて下さいって言われちゃったしね。

昭和演歌から歌謡ポップ、クラシックに童謡を今必死になって思いついている毎日ですよ。

今こそ甦よみがえるがいい、私の記憶！

流石に例の財団法人はここまで取り立てにはこれないだろうしね。この館から一番近い街で上演しているから一度観に来て下さいって誘われちゃった。

でも、外に出るのが面倒臭いなあ。

27・義理と禪欠かされぬ

よく言うよね。

義理と禪欠かされぬって。

館が快適過ぎて絶賛引き籠もり中です。

前の店のときも用がなければ引き籠もってたけどね。

欲しい物があれば業者がやってきてくれるし、掃除洗濯料理もしてくれるし、街で流行っている新作お菓子も館のあちらこちらに置いてあつて出かける必要が今のところないのよね。

そんな素敵ライフ引き籠もりの危機がやってきた。

前のお店のオーナー弟が久々に訪ねてきたと思つたら『お仕事』のお話だつた。

何でも上得意のお客さんがごねてるらしい。

どうしても私に会いたいつて言われてもねえ。

聞けば専門じゃない普通のお仕事みたいだし、巷で流行ちまたっている

歌劇団の作曲なんかをやらかした娼婦ちやうをご覧になりたいそうで。

媚こび方なんてもう忘れちゃったよ。

オーナー兄弟も、もう店に居ないし無理だつて何度も断つたらしいんだけど、あちらさんも何か意固地になつてゐるらしくて引かないんだとか。

外に出るの面倒だからこつちに来てくれないかなつて言つたら、顔引き攣こらせて無理とか言つし。

この館へ来るときに一応義理は果たしたつもりなんだけどなあ。

パトロンスの手前、普通のお仕事はしたくないんだけど。

それに、意固地になつてるとか我が儘なお客さん相手にするのもなあ。

とは思つても、世話になつた人から一生懸命拝み倒されると断り憎いし。

渋りに渋って今回限りの一回こつきりという条件で引き受けることにしましたよ。

この手の『仕事』は二度と持ち込まないときつちり約束も取り付けたし、一応報酬も貰えるみたいだし、恩を売ったところで損はないしね。

今回の旅行費用は全てオーナー兄弟持ちで、護衛も前回ほどではないけどちゃんと付けてくれるし、かつてしてた労働だから一回くらいならいいかなと。

オーナー弟、感涙しながら抱きしめてくれたけど簡単に私の骨折れちゃうから！

頷いた以上は仕方ないし、小旅行の準備を整えて出発ですよ。

準備したのは主に館の人達で、私はそのあいだお茶を飲んでただけですがね。

馬車の移動って嫌いなんだけど、そういえばこの館へ来たときに乗ってた馬車は割りと乗り心地が良かったなあ。

私の馬車嫌いに駄犬が色々と改良してきてくれたんだよね。

南の国から前の店へ引越して駄犬がやってきた頃かなあ、何かの拍子で馬車の話になったんだけど何だったっけ。

こっちはタイヤとかアスファルトなんてないし、原油があるのかも分からないし、ゴムみたいな感触だったら振動が吸収されて乗り心地は良くなるんじゃないの？　みたいな話をした気がする。

道も接着剤みたいな物を混ぜればどうにかなるんじゃない？　と適当なことを言った気がする。

座席部分も板に綿を敷いて布を張るんじゃなくて、スプリングを入れるとかどうか。

詳しい仕組みなんて知らないから、多分とか、こんな感じで、って話してたような？

そんな曖昧な話を元に駄犬が改良してくれたお陰で馬車の乗り心地は良かった。うん。

後は、道がちゃんと整備されていたらもっと良くなると思うの。

と前回の移動で思ったんだけど、今回は道が随分と整備されててびっくりした。

高級車並に全然振動を感じませんってことはないんだけど、前回よりも更に馬車が良くなってる？

振動がだいぶ減ってるし、小窓から覗いたら道も綺麗に均されてたんだよね。

勿論、アスファルトなんかじゃないんだけど、ただ均しましたってわけでもなさそう。

今度パトロンズが来たら聞いてみよ。

しかし、今住んでいる館は会員制ってこともあつて繁華街から外れてるっていうのに館近辺の道も均されてた。凄い。

森を抜ける道はまだところどころ工事中だったりもしたけど。

鰐さんのいる真ん中の国は東の国の隣で西の国の上にあるんだね。ただいま鰐さんの国を横断中。

今回の旅行で初めて知ったわけだけど、中央の国と呼ばれるのは二つあつて東側にある中央の国は鰐さんの国で今回行くのは西側なのよね。

私が普段西の国と言っているのは正確に言えば大陸の中では真南になるのかな。

ユーラシア大陸だと私が言ってる南の国はマレーシアとかシンガポール辺りで、西の国はインド辺り？ 東の国は中国辺りなのかな。鰐さんがいる国はチベット辺り？ 今回行くのは、パキスタンとかアフガニスタンとかスタンシリーズ国の辺りだと思ってんだけど、何せ地図が無いからなあ。まあ、その辺だろうって適当に見当つけてるだけだしね。

今までで一番長い旅程だけど馬車と道も改善されてて途中まではかなり快適だったね。

うん、途中までね。

普通都心部から道の整備とか手がけていくもんだと思ってたけど、何で国の端っこから都心部へ向けて整備されていくんだろうか。

王都になるのかな。近づくに連れて段々悪くなってるし、都心部がこれだとこの先は期待できなさそう。

ヘッドバンギング再び、覚悟しておかなければですよ。

28・売られた喧嘩は買わねばならぬ

よく言うよね。

売られた喧嘩は買わねばならぬって。

到着しました、新西の国の王都らしいですよ。

お城が見える小さな宿屋をまるっと貸し切って、二日は旅の疲れを労ってダラダラと過ごさせてもらったのよ。

この辺りは農作物が豊富ではないのか、或いは特産物なのか、芋もどきな野菜……多分野菜が常に入っているんだよね。

主食なり主菜なり副菜なり必ず一つは入っている。

ドイツの芋事情みたいなものだろうか。

往復で一ヶ月以上掛かるし『仕事』が終わったら早々に帰りたいってのもあるしね、姐さん達を始め姐さんズのパトロンスンや、私のパトロンスンに館の従業員用のお土産も買っておいたし遣り残しはないかな？

そんなに時間あったわけでもないから、質より量なのは否めないけど許してくれるでしょう。

で、本日は例のお客さんとか対面の日なんですけどね。

ところで、お客さんってどんな人？　とついてきてくれたオーナー弟に聞いてはみたけどちゃんと教えてくれなかったのよね。

まあ、オーナー兄弟が押し負けるくらいなんだから、そうとう良い身分な人なんだろうとは思ってましたよ。

思ってたんですが、何で偉そうな女性が一杯乗り込んで人の体を芋のように洗うんですかね。

何気に不愉快ですよ？　オーナー弟よ。

デリケートなお肌や髪だって乱暴に洗われたし。

股ん中にいきなり指突っ込まれてうひょっ！　とか言っちゃったし。

中で爪を立てられそうになったときは流石に足が出ましたけどね。いくら温厚な私でも怒るわよ！ 真っ裸で泡だらけで威厳も何もあつたもんじゃありませんがね！

人の大事なところに何する気なんだ。傷ついたらどうしてくれるんだ。病気だ？ ふざけるな。プロを舐めんな！ 定期的に医者に診てもらってるわ！

毛じらみ、蚤、ダニ、十年くらい前から対策済みだっつの。雑草一本生えとらんわっ！

というかオーナー弟今すぐここに来い！ こんな話聞いてないんだけど！ 肝心な商売道具を乱暴に扱うって何なの？ どうしてもって言うから来てやったのに！ 来てやったのに、何この扱い！ 帰れというなら喜んで帰るんだけど！

頭きたんで呼びつけたオーナー弟へ捲くし立てたら、高慢女の一人が『んまー！』みたいに文句言ってますけど知ったことですか。

日本ほど医療が発達してるわけでもないのに、デリケートな部分にちよつとでも傷つけて化膿したらどうしてくれるのよ。

このあと『仕事』もあるというのに冗談じゃないよ。

言っておくけど、傷ついてたらマジで帰りますから。『仕事』なんてしたら確実に余計な雑菌入るんでしたくありません。宇宙を形成していると言っても過言ではない菌の温床地を馬鹿にすんじゃないわよ。股間がブラックホールとかシャレにもならんわっ。

その辺はオーナー弟も商売柄分かってるんで高慢女に文句を言うてくれた。

いいぞ、もつとやれ。

結局、高慢集団は結局は使いだし色々と権限もないようで、すごい嫌な顔で謝りはしたけどね。

あとは自分で泡を流すことになりましたよ。

着替えも高慢集団が用意してきた服を着付けされました。

何だかなあ。

もう！ 何で自分で支度しちやいけないわけ？

はい？ 暗器を隠してないかの身体検査？

……………。

帰っていいかな？ 駄目？ あ、駄目なのね。

行きたくないーっ！

29・いつか王子様が

よく言うよね。

いつか王子様がって。

サムデイとくればオーバーザレインボウかと思っていたら、やってきましたよ王子様が。

いや、私が会いに行っただけだね。

髪から口の中から耳の穴から股の穴まで武器を隠してないかを調べられ、用意されたドレスを着せられ、同じく用意された馬車に乗せられお城へ行きましたよ。

お城の真正面にある大きな門ではなくて、業者が出入りするような裏門を潜ったのは夕方を過ぎたころだから、部屋へ案内されたときはだいぶ暗くなってきたって感じ。

オーナー弟も一緒に、案内された部屋で用が済むまで待機してくれるんだって。

時間が少しあるからって出された軽食を平らげつつ、どういふことなのと今更ながらに聞いてみましたよ。

私が作曲したということになっている曲が切っ掛けらしいんだけど、劇団と呼ばれるのが二種類あって街の劇団と旅回りをする劇団と二種類あるんだって。

曲を教えた生バンドの人達は元々東の国を拠点にっていて、楽曲提供もうちの館から近い街に劇団を構えてたところへ流したらしいのよね。

で、珍しい、斬新だってことで火がついて、取り込んだ旅回り一座がこの新西の国へと到着し、演じたところを王子様の目に付いたんですって。

そりゃあ、斬新だろうね。組曲の中にソーラン節やら東京音頭やらに混じってJ・POPがあったり洋楽のヒップホップやらラップ

が入ってんだもん。

空恐ろしくて未だに観に行けてませんよ。

この王子様、第三王子だとかで芸術方面に造詣が深いとか。

こんな斬新な構成初めて！ 一度会いたい！ って流れから、どうやって調べ上げたのかオーナー兄弟までコネをねじ込んだんですって。

ふうんって感じ。

というか、私は芸術方面に造詣深くないので、音楽の構成とか聞かれても困っちゃうんだけどなあ。

ちよつと恨めしい気分でオーナー弟を睨んだら、ひたすらごめんなさいされてしまった。

くどいけど、もうこんなのは無しだからね。とだけ念を押しておいたところで、王子様のお支度が整ったからとお迎えが来ましたよ。何か身分がどうか、弁えろてきなこととか、廊下を歩きながら居丈高な注意事項をあげてましたけど、まあ右から左へスルーしておきました。

権力者には逆らいませんよ。大人しく従順に『お仕事』をこなすだけです。

通された部屋で待っていたのは二足歩行のまんま虎さんでした。獰猛っていうより温和な雰囲気で、良いところのお坊ちゃんって感じ。

虎にベビーフェイスって言えるのか分からないけど、甘い雰囲気。が素敵。

体だつてガツチリしてて格好良いし。よくよく考えれば王子様とか会う機会ないしね！

ちよつとテンション上がるわあ。

自己紹介の挨拶から始まって、ウキウキキャツキヤな気分で軽くお酒を飲みながら歌劇の話に触れたりして、頃合になって『お仕事』を済ませましたよ。ちよつとサービスはしておいたよ！ 王子様だからね！

高慢女を始めとしたお城の人達は感じ悪かったけど、王子様はなかなか良い人だったね。うん。

優しくしてくれたし、女の扱いにも慣れてるみたいだし。

アチラの相性もまずまずなんじゃないかな？ サービスも気に入ったのか報酬とは別にチップ弾んでもらったしね。

用も済んだしお湯だけ借りてさっさとお暇しましたよ。

せめて夜が明けてからって引き留められたけど、そういうのってよく分らない。

確かに『お仕事』はしたけど知らない人だし、時間が余って添い寝をすることもあったけど、それって料金が勿体無いからって理由だったし、初対面の人と会話を弾ませたりすんの面倒なんだけど。

『仕事』の一環として残れというのなら残りますが？ って返したら帰っても良いって言ってくれたので引き上げることにしたのよ。久々だったからあとで筋肉痛にならないと良いんだけどなあ。なんて思いながら宿に戻ってぐっすり眠ったんだけどね。

次の日は遅めに起きて身支度を整えて、朝食兼昼食を済ませてそろそろ出発しようかってころですよ。

お城から使いがやってきましてね。

何でも、第三王子の後宮に入れてやってもいいと思っているから、もう一回登城するようにですって。

あらやだ。これって、玉の輿のチャンス？

30・生きてるだけで丸儲け

よく言うよね。

生きてるだけで丸儲けって。

いやあ、長旅だったわあ。

お疲れ私、お疲れみんな。

これ、お土産！ と館のみんなに配って回ってたら知らない方がいました。

私が旅に出ている間に、兎姐さんがやっと気に入る下僕を見つけ
たらしい。

体の頑丈さが売りの象さんだそうで。へえ……………。

見た目は人っぽいんだけど、耳が超福耳してた。お釈迦様より長
いんじゃないだろうか。

あと、肌が象さんっぽくてかなり堅い。

初めましてのご挨拶と、つまらない物ですがとお土産を渡してお
いた。

話してみるとのんびりマイペースな感じの人だったなあ。

というか兎姐さんに引きずられて部屋に連れ込まれたら、ライオ
ン姐さんと白熊姐さんを始め他の姐さん達もお揃いなんですけど何事
ですか。

え。何事とはこっちの台詞？ 王族から後宮入りの声があったと

？ 何で知ってるんですか。

いや、断りましたよ。面倒そうだし。

馬鹿って……ヒドイ。

えゝ。だってねえ？ 初対面ですよ？ お客さんですよ？ そり
やあ、いい人そうだなあとは思いましたけど後宮でしょ？

正妃さんもまだなように、栄誉ある後宮第一号らしかったんです
けどねえ。

幸い、今までいた娼館やここは姐さん達が良い人ばかりで居心地良く過ごせましたけど、後宮なんて行ったらドロドロした女の戦場そのものじゃないですか。

今のところ子供ができる機会はありませんでしたけど、万が一子どもが生まれちゃったりとか、権力争いに巻き込まれちゃったりとか考えちゃうとねえ。

今は借金もないし、寧ろ貯金も増えているし、衣食住にも困っていないし、護衛もいてくれるし、身の危険も少ないですし、何かあれば頼れるパトロンズもいますしねえ。

元々引き籠もり体質だから出歩こうって気はないんですけど、自分が好き勝手に出歩けるのと出歩くのも不便なのとは状況が違いますし。

後宮なんかに入ったらちよつと近所に出かけるっただけで、お供がどうとか先方がどうとかスケジュール調整とか大変じゃないですか。

ライオン姐さんが、困ったような顔しながら頷いてる。
でしょ？

それに、後宮に入ったら入ったで行儀作法とかきちんとしないといけないし、要人との会合とかも付き合わないといけないかもですし。

ここでだって左団扇な生活ができてるのに、何でそんな縛りだらけな生活をしなければならないのかと。

王子様は男前でしたけどねえ。今の生活捨ててっつてほどでもないと言いますか。

え？ 一目惚れ？ え、白熊姐さん、実はロマンチストさん？

いや、無いです無い無い。王子様と会う機会なんてそう無いですからテンションは上がりましたけど、それだけですよ。

損得考えたら損の方が大きいですし、損を押してまで王子様と添い遂げたいって思うほど好きってわけでもないんで。

この館でのんびりしてる方が居心地良いです。

なあって話していたのが先月ですよ。

勿体無い話ねゝなんて姐さん達はばやいてましたけどね、今更氣苦勞する世界になんて行きたくはないし。

と思つていたら、王子のお使いがやってきたりとか、業を煮やした王子本人が乗り込んできたりとかつてね。

客というか下僕として通うつていうなら考えてあげても良いけど？ とか言つたら王子の従僕が切れるとか、まあ賑やかなことこの上ないです。

西から東まで来るとか、そんなに氣に入ってもらえたのは嬉しいけれど、三番目とはいっても仕事は一応あるんだろうし、そういうの全部ほつたらかして来られてもねえ？

パトロンスも一回は大目に見たけど、こう乗り込んでこられるのは当然面白くないようで王子を連れて別室に行つてしまった。

さつき王子が帰り際に何か吠えていたけど、パトロンスは何を言つたんだろ。

まあ、静かになるならそれでいいんだけどね。

結局日本にも帰れなさそうだし、太く短く生きるのもまた良いかもね。

何の因果でと思ひもしたけれど、最近ではこう思ふようになった。

私は宿命的な放浪者である。

この先また流転する人生が待つているかもしれないけれど、最後は笑つてられればそれで良いや。

杜美津子永遠の十七歳、緩く頑張つていきますよー！

30・生きてるだけで丸儲け（後書き）

私は宿命的な放浪者である——林芙美子「放浪記」より

何かなんでも首ったけ

馬車は嫌い——彼の方がそう仰ったから。

スウノの街にある高級酒場『白蠍亭』の二階、奥まった一室では人目を忍んで集まった四人の男達が静かに語りあっていた。

東の大国タスルの宰相を務めながらも歳若くして隠居生活を送る亀相のセオナ、南国アザリ王の従兄弟であり將軍も務める黒き犬相のガラド、大陸の中央にありタスルと勢力を均するルター国外相は鰐相がくそうのゴストー、そしてこのスウノで最も高級な娼館琥珀熊亭を商う熊相のグルンである。

軽食として用意された食事は粗方済み、今はそれぞれがグラスに注いだワインを傾けている。

「先日、彼のお方の興味を惹けないものかと観劇にお誘いしたのが駄目であった」

セオナがグラスを揺らしながら溜息混じりに零し、それを拾ったゴストーが返す。

「それはもしや『白鷺の羽』一座がやっていた演目であろうか」

「さよう。もしや貴殿も彼のお方をお誘いになられたのか」

「うむ。巷で人気のある一座と聞きましたな。しかし、貴殿と同じように断られてしまった」

互いに断れることは承知で万が一の可能性に賭けてはみたものの、やはり結果は芳しくなかった。

「さようであったか。………ところで、叶うならばぜひ彼の方へお願い申し上げたいことがあるのだ」

「ほほう。彼の方へ願ひ事を申し出る気か？」

「我ら僕が願ひ出るなど過ぎた事は承知しておる。もし、叶うことならばと言つておりましょう。今のままでは到底叶えられることはございませんがな」

鰐特有の鋭い牙を覗かせて擲掬交じりに笑うゴストーへ、柔和な面立ちをしたセオナが緩く頭を振りながら答える。

「貴殿がそのように仰るとは氣になりますな。どのような願いか伺つても？」

「我が国へ一度だけでも良いのでお越し頂きたいと思っている」

「それは……また……何と申し上げればよいのやら」

セオナの言葉に啞然とした様子で目を見開いたゴストーは、同情と共感の籠った眼差しを向けつつ言葉を濁す。

「彼のお方の馬車嫌いでは到底願ひ出ることもできぬ有様ではあるがな」

「馬車を利用するたびにろくな目に合わぬと以前零しておりましてし、馬車の座り心地も悪いからと。それだけの理由で彼女は外へ出たがりません」

セオナとゴストーの切なげな遣り取りに、娼館亭主のグルンが笑いながら口を挟む。

「確かに彼のお方の柔らかな体を思えば、馬車の座席は苦痛以外の何物でもなかるうよ」

「……貴殿、彼のお方に触れることを許されたのか」

「以前、我が背に彼のお方がお座り下さった」

胡乱な眼差しを向けてくるゴストーへ、セオナは得意げな笑みで答える。

「羨ましいかぎりだ」

忌々しげにぼやいたゴストーがグラスを一気に呷るとグルンは透かさずワインを注ぎ足した。

自国においては当然ながら、他国にまで名が知れる三方が顔を合わせた席に下手な給仕をつけるわけにはいかないため、こうしてグルンが給仕の代わりも務めているのである。

「まあ、そうばやかれますな。実は貴殿に相談がございましたな。貴殿にとっても悪い話ではないと思うのだがいかがだろうか」

「ほお？　まずはその相談を聞いてから判断いたそうか」

「先も申ししたが、是非とも彼のお方には我が国へお越しいただきたいと思っております。しかし、ご存知の通り彼のお方は馬車を嫌うておられる。そこで……………」

セオナは言葉を切ると薄い笑みを浮かべたまま黙もくしている隻眼を装うガラドへと目を向けた。

「アザリで作っておられる馬車があれば、彼のお方も我が国まで赴いてくれるのではなからうかと思っておりますのだが。ガラド殿、一つご協力をいただけないだろうか」

「妙に近辺を嗅ぎ回っている者がいると思ったが、やはり貴殿の手の者であったか」

静かにワインを飲んでいたガラドは一つ息を漏らすように笑うと、ついと伏せていた視線を上げてセオナを見る。

「やはり気付かれておったか。腕の良い技巧師を集めておられたから、また何か企んでおるやもと思ひましてな。聞けば、色々と馬車を作らせているそうではないか」

悪びれなく答えるセオナにガラドは犬齒を覗かせて笑みを漏らした。

「馬車の乗り心地が良ければ多少の遠出はお誘いできるかと思ひましてね」

「ふんつ。遠出とは貴殿の国までのことを仰られるのか」

飄々と答えるガラドヘゴストーが胡乱な眼差しを向けて絡む傍らで、グルンが慌てて割り込む。

「お、お待ち下さい。彼女はまだ我が館で世話をする者ですぞ。勝手に連れ去られては困ります」

「元は我が国、そなたの弟がやっていた館におられたのだ。弟の館が元に戻れば問題はなからうか？」

「そうは仰いますが、既にアザリの館は畳みましたので……………」

「館再建の出資はしよう。許可はいつでも出せる。彼の方が背負われているものも払えば文句はあるまい？」

「そ、それは……」

羽振りが良いとはいえグルンは庶民でありガラドは王族である。獰猛な笑みを浮かべながら畳み掛けられては否とは言えない。

しかし、獣相の少ない『人間』は希少であり、『人間』を世話しているだけでも館に箔はつく。

ましてや彼女は獣相を持たない更に稀な生粋とも言える『純人間』であり、例え買えずとも彼女見たさに館へ訪れる者は後を絶たないのだ。

アザリの戦火を逃れ、このスウノへ逃げ延びて来たときもガラドの一言で通常の客は取らせていない。

再びアザリへ戻してしまえば折角増えた客足が減ってしまう。

目まぐるしく損得を数えるグルンは言葉に窮し狼狽えるばかりであつた。

「彼の方が背負われているものならば私が支払いましょう。さすれば我が国へお越し頂いても問題はないはずだ」

ガラドを牽制するように太い腕を見せ付けてゴストーが身を乗り出す。

「まあまあ、ゴストー殿。少し落ち着きくだされ。そこで私からの相談と申しますか提案なのですが、アザリとルターの国境近くにある我が領土に空いた館がございましてな、現在手を入れておりますが、一つその館へ彼のお方にお越しいただけないかと思っているのですよ」

その表情から異を唱えようとするゴストーに先^{せん}じ、セオナが掌を見せて遮る。

「確かに我が領土ではありますが、シンフの街であればアザリの王都、ルターの王都、我がタスルの王都、どこからでもほぼ同じ距離といえましょう。ルターからスウノへ出向くよりかはシンフに赴いた方が近い。今回こうして皆様に集まっていたいたのはこの話を

するためでしてな。いかがだろうか。ゴストー殿は彼のお方が背負われているものを支払われ、スウノからシンフへ続くルター領内の道を整備される。私はシンフまでの道を整備し、館と彼のお方のお世話をしお守りする者を揃えましょう。そして、ガラド殿には件くだんの馬車を用意していただきたい。皆様にとって悪い話ではございませんでしょうか？」

勿論、アザリからスウノへ向かうよりかはシンフへ向かう方が距離は短い。

元々、この席で話題となっている者はガラドとの馴染みが一番深く、彼が望めばあるいはアザリに戻ることを承諾するかもしれない。いや、馬車の乗り心地にさえ満足してしまえば承諾する可能性は非常に高い。

奸智に長けると噂のあるガラドの元へ戻ってしまえば、何かしらの策を講じて密かに隠してしまわないとも言切れない。

アザリが未だ戦火燦る今だからこそその提案である。

「確かに悪い話ではないが……特別良い話でもないな」

口角を釣り上げたガラドは挑戦的な眼差しをセオナに向けた。

「ワルト国への牽制……はいかがかな？　ワルトとの間にある我が国がアザリにつけばそう簡単に手も出せますまい？」

驕りとも思える言葉を返すセオナではあるが、それだけの力を持った大国ゆえの言葉でもある。

ガラドが是と答えれば秘密裏ながらも条約は結ばれ、今は収束を迎えつつあるが先日まで殺りあっていたワルト国が再び攻め入った際にはタスルが軍を出す。

けっしてガラドにとっては悪くない話である。

「……王は、今回の戦による賠償としてワルトの金鉱を望んでおられる」

互いに探り合うように見合っていたガラドとセオナであったが、溜息を零したのはセオナだった。

「まったく……噂どおりの方ですな。善処いたしましょう。しかし、

それでは我等が聊か不利益だ。今、改良を進めている馬車の技術を教えて頂く。これならばいかがですか？」

「承知した。……しかし、そこまで調べ上げていたとはな。見逃さずに殺^やつておくべきだったか」

「ご冗談を。貴殿のお蔭で何人使い物にならなくなったことか。では――」

「ああ、タルス王には宜しくお伝えして欲しい。……そうそう、ワルトにはもう一つ大きな金鉱があるそうだ」

セオナが懐から取り出した牛皮紙にそれぞれがサインをし、交換を済ませる傍らガラドが呟く。

「やれやれ。貴殿が生きている間はアザリへ手を出さないよう王へ進言しておきましょう」

「貴殿こそ、コレを見越して持ち込んだ話であろうが。慧敏と言われるだけのことはある」

コレ、と揺らして見せた牛皮紙を懐へとしまうガラドのからかいには、セオナはただ肩を竦めただけであつた。

「さて、ガラド殿は承知いただけたがゴストー殿はいかがであろうか」

「いかかも何も我が国への利益が少ないではないか」

それまで黙っていたゴストーではあつたが、セオナに水を向けられれば釈然としない様子で答える。

「確かに。ガラド殿が手がけている馬車はかなり良い物だそうで……」

「ゴストー殿にも詳しくお話いただけますかな？」

「俺が話さずとも内情はとくにご存知なようではあるが？ まあ、いい。馬車については以前彼のお方から良い話を聞いてな、その話を元に車輪を太く厚い物へと変え、車輪の回りにはシー^{ゴム}チュを均等に巻きつけることで衝動を和らげることにしてみた。まだ改良の余地はあるが、従来の車輪に比べ格段に性能は上がった。また、座席の部分も改良を加え座り心地も良くなっている。試作は出来上がったので近々彼のお方へ試していただくようお願いするつもりだ」

セオナに促され呆れた表情を浮かべたガラドであつたが洩る素振りも見せずに説明を試みせた。

物資が乏しく他国から輸入に頼ることの多いアザリではあるが、自国で開発した技術を他国に売りつけることでは大陸随一である。

その技術を活かした軍事力を軽んじたのが、先の戦争で負けたワルト国だ。

一方、話を聞いたゴストーは聊か驚きの表情を浮かべて言いよどむ。

「シーチュか……しかし、それは……」

「承知の通りシーチュをただ巻き付けただけでは直ぐに磨耗してしまふ。そこを改良し、スウノからアザリへ行くまでは持ち堪えられる代物となつた」

「なんと……」

「ルター国で採れる鉄を融通していただきたい。で、いかがだろうか。もう少し改良を進めたいところではあるが、彼のお方に試していただいた後であれば試作をルター王へ献上しても構わぬ。ルター王が気に入れば道の整備の言い訳も立つて容易く手がけられるであらう？」

「っ！ 貴殿ら！ まさかグルではあるまいなっ！」

したり顔のガラドにゴストーは思わず声を上げるが、異口同音に否と答える二人は返つて胡散臭い。

何もかもがお膳立てされた話なため、素直に頷きたいものがあるがゴストー、引いてはルダー国にとつても悪い話ではない。

アザリは資源に乏しいためか野心溢れる国でもある。

今回の戦いに関してワルト国が軍を動かすよう仕向けたという噂が真しやかに流れているほどだ。

ここは下手に断るよりも乗った方が良くゴストーは判断する。それに、自分だけが彼の方に関してのけ者にされるのは面白い。い。

「否と言える状況ではありませんな。飲みましょう」

「では、改めて特使をルター国へ送りますので宜しく頼みます」

こうして三国の中枢に立つ者達が密約を交わす。

「さて、グルン。貴方のことですが、彼の方が館を出られても問題ないよう取り計らいましょう。金離れのよい者を数名送るといふことでいかがですか？」

「同じくアザリからも数名紹介しよう」

「あなた方兄弟は彼の方が世話になったことですし、背負われたものに少し色を付けて私からも数名紹介いたしますか」

一庶民の存在など容易く消し去ることができる権力者達からこうも言われてしまえばグルンはもう何も言えない。

それに公にはできないながらも三人と深く誼よじを結べたところは大
きい。

「宜しくお願い致します」

深々と頭を下げたグルンに、三人はそれぞれ満足のいった様子で
笑みを浮かべ、改めてワインを満たしたグラスを打ち鳴らした。

彼の方がタルス国にあるシンフ領の館へ移るのはもう少し先のこ
とである。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4531u/>

裸でゴメンあそばせ？

2011年10月30日18時28分発行